

9

444

明治二十八年二月

山形縣震水災概況

023588-000-2

9-444

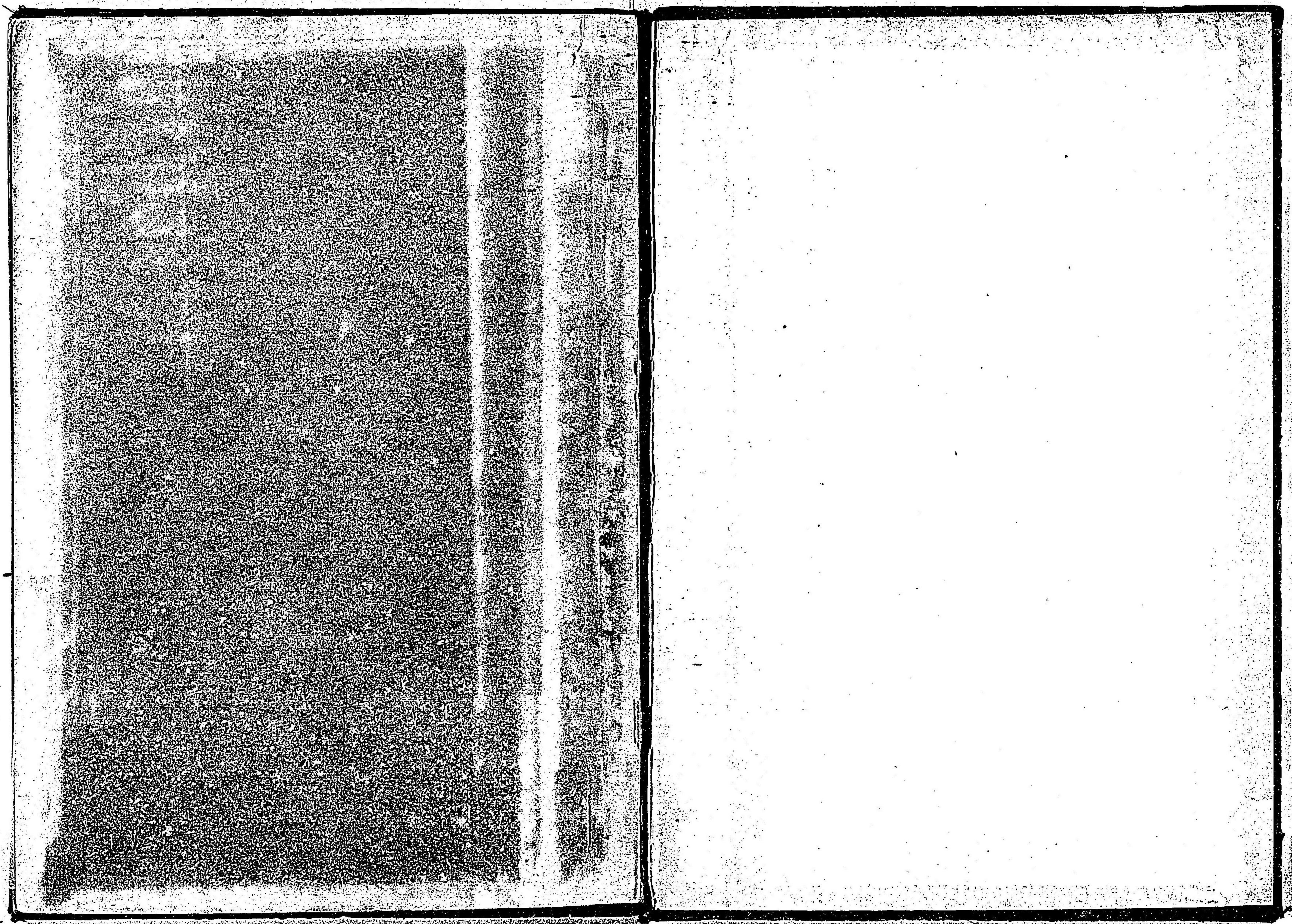
山形縣震水災概況

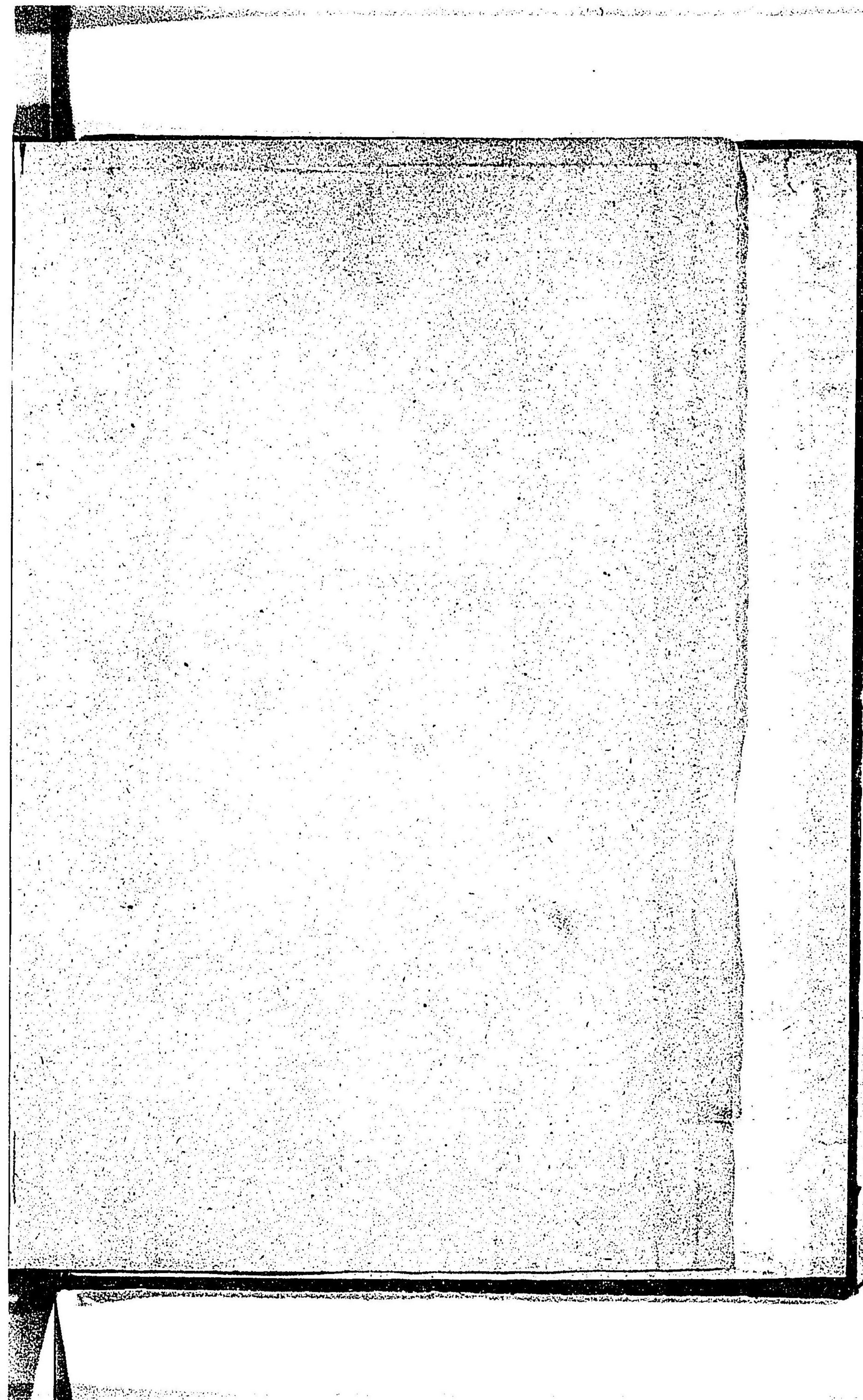
渡辺 九十九/編

M28

ADC-0568



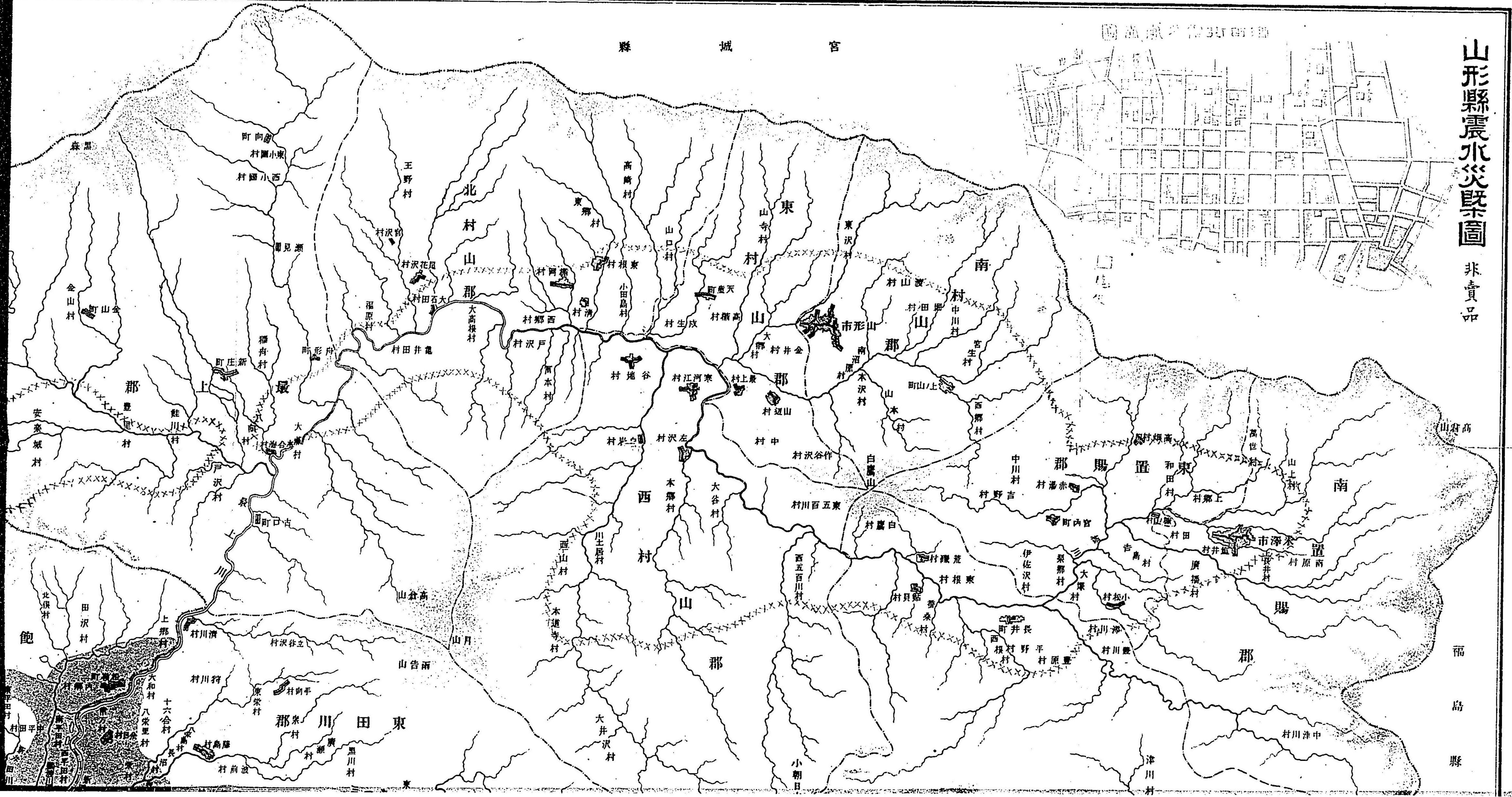
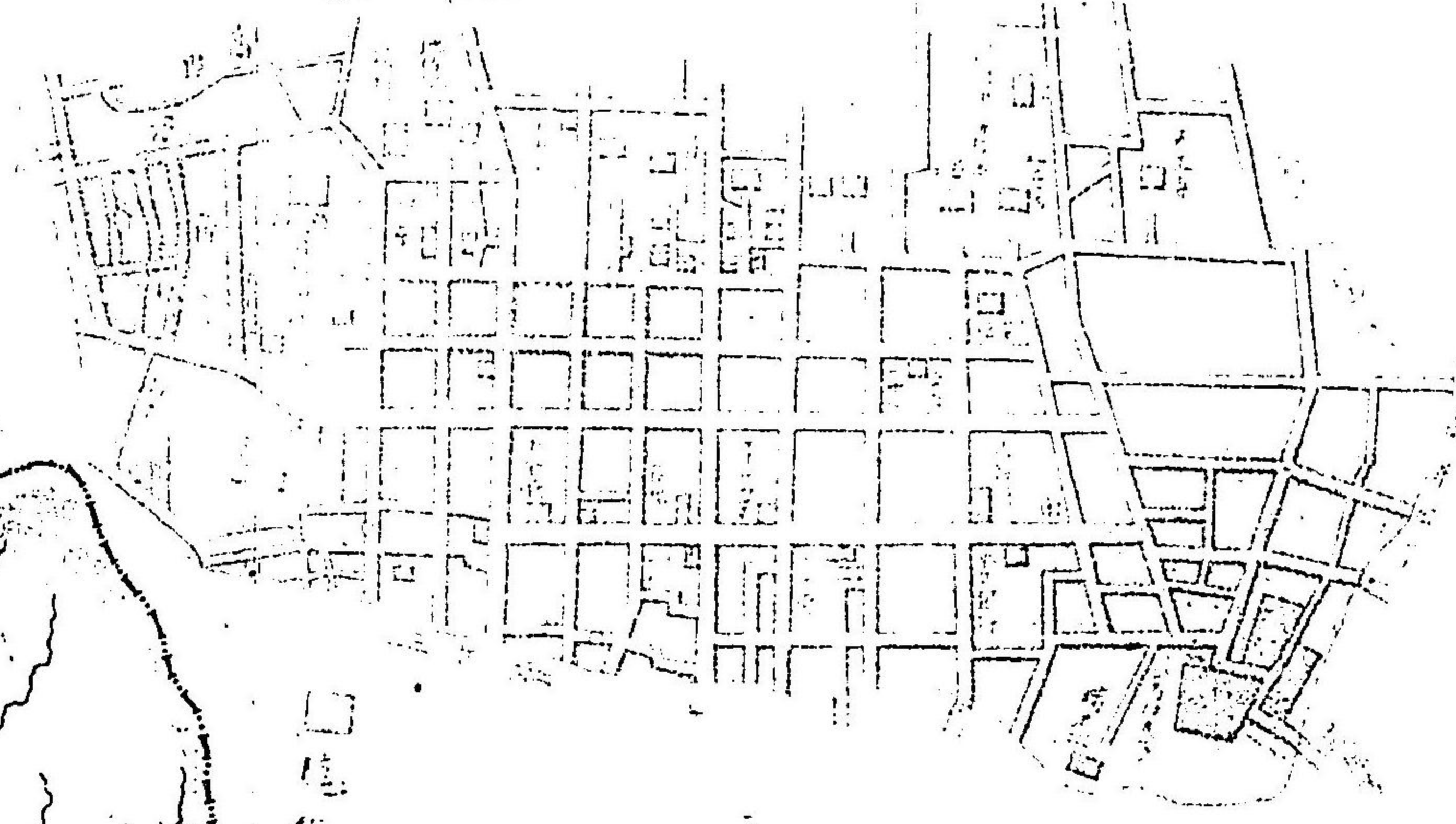




國政院地部訂明

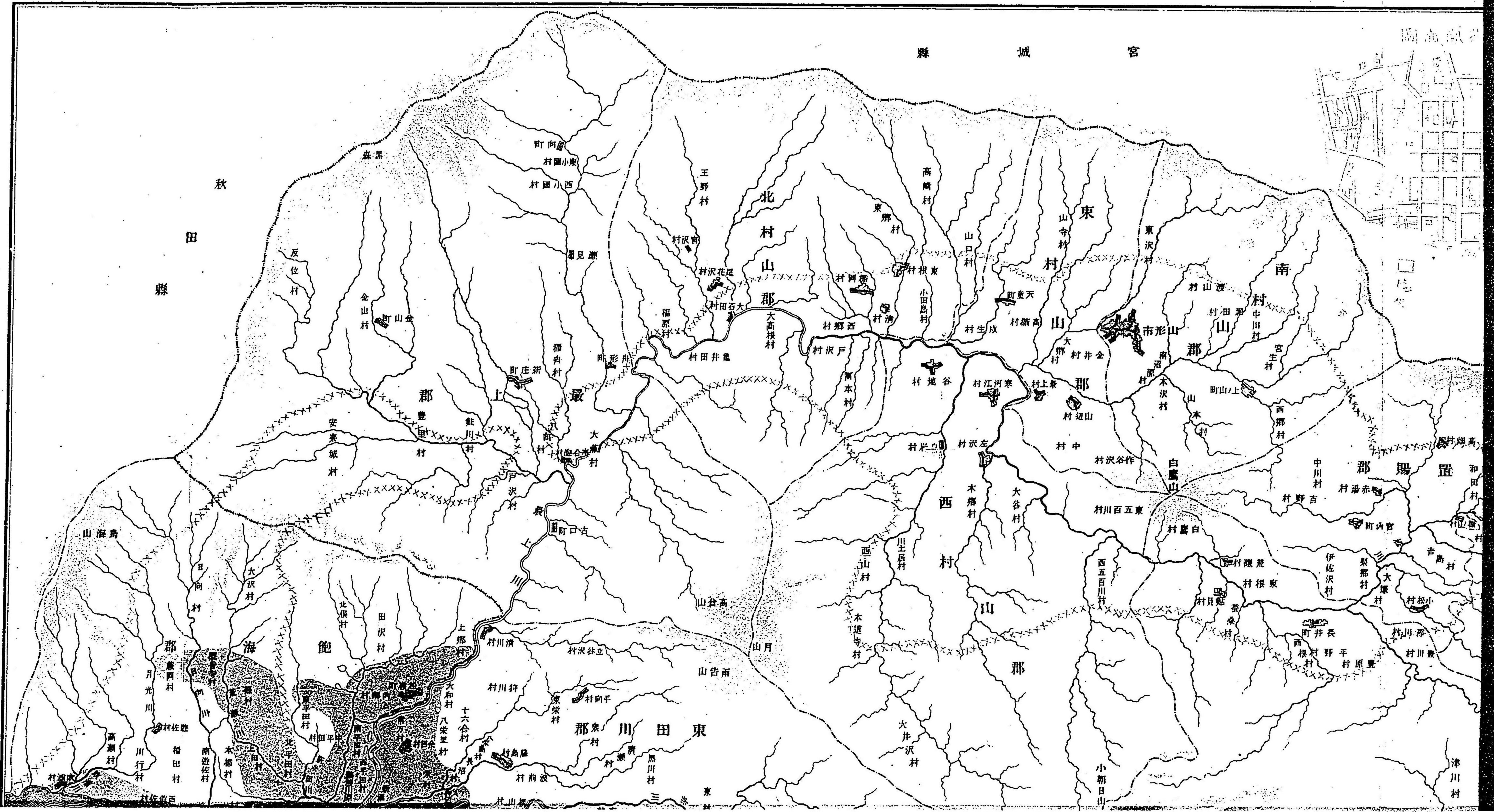
縣 城 宮

山形縣震水災既災圖 非賣品



福 島 縣

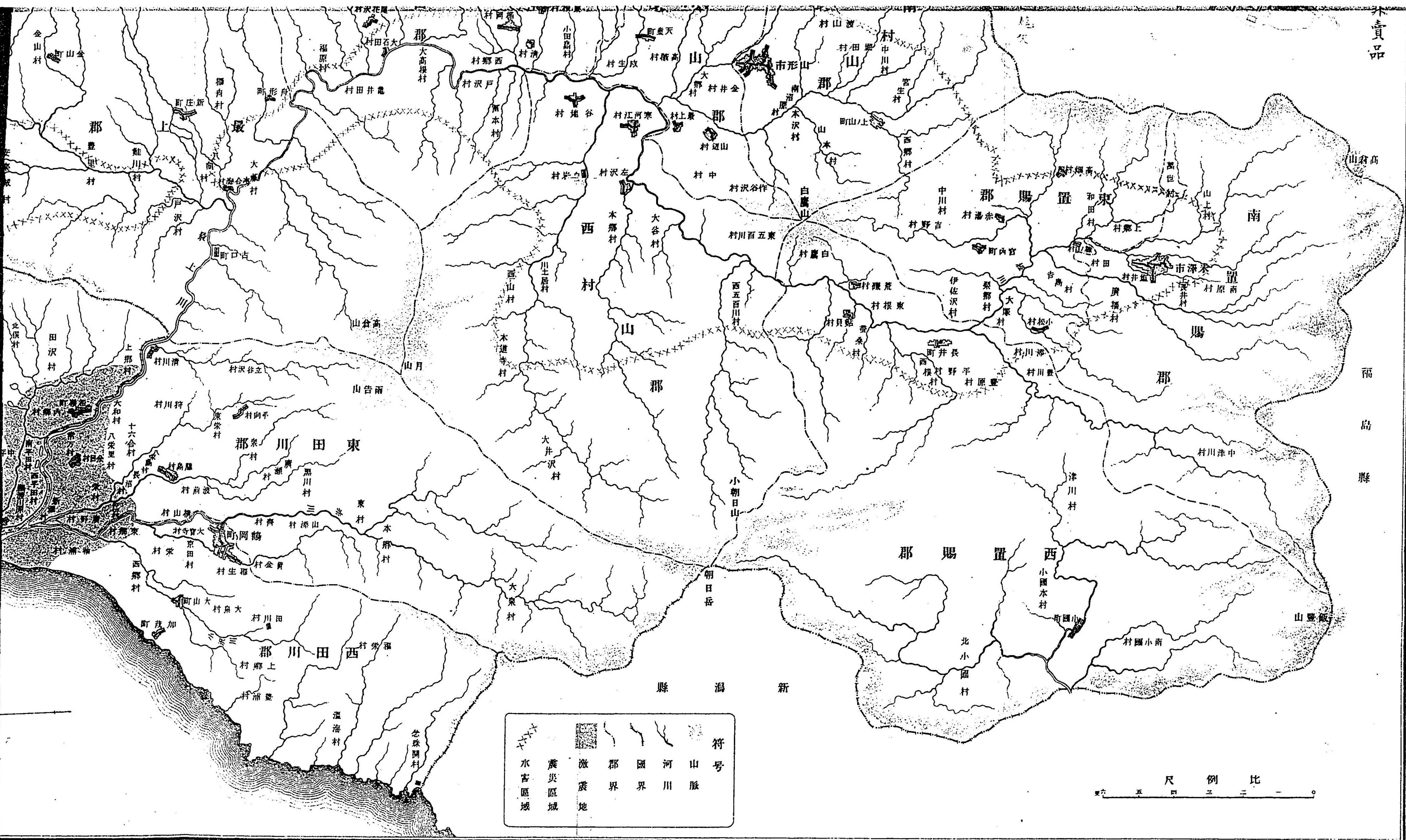
官 城 縣



秋 田 縣



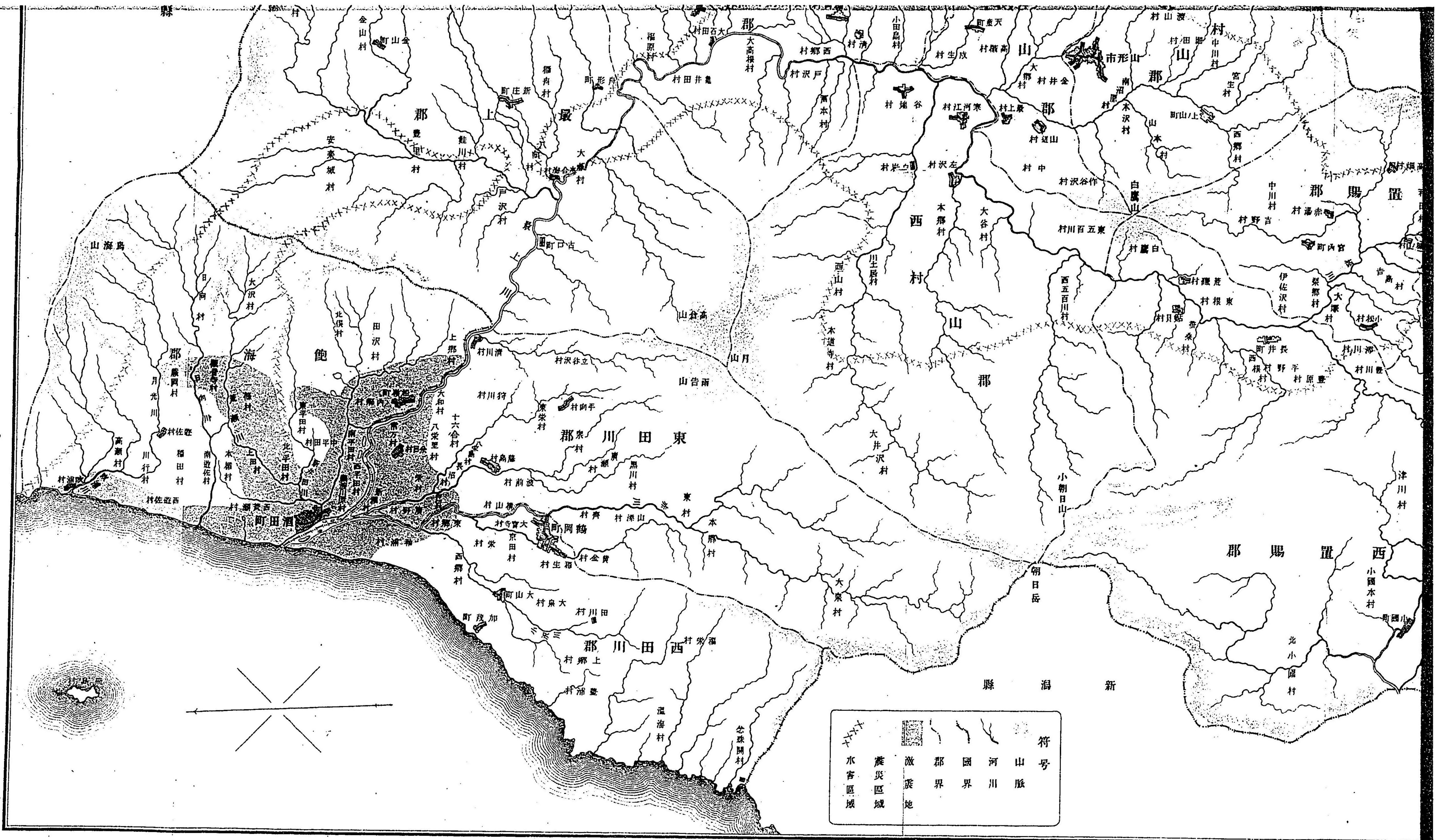
不賣品



水害區域	震災區域	激震地	郡界	國界	河川	山脈	符号
------	------	-----	----	----	----	----	----

尺例比
 一〇〇〇〇〇〇〇
 一〇〇〇〇〇〇〇

福島縣



符号	
XXXX	山脈
~~~~~	河川
———	郡界
———	國界
■	激震地
■	震災區域
~~~~~	水害區域

山形縣震水災概況

目次

明治廿七年山形縣震災概況	一
山形縣震災被害一覽表	
震災物件及價格概算表	
山形市外拾郡水災被害物件調査表	十七丁
飽海郡月光日向兩川水災物件及損害概算表	全
明治廿七年五月廿六日山形市燒失財產統計表	十八丁
震災復舊工事設計豫算表	二十丁
尋常小學校校舍建築復舊費及經常費豫算表	二十五丁
震災被害地國縣稅並町村稅水利費(最近三ヶ年平均)比較表	二十八丁
上野村內相濟災民書	一丁
國稅特別處分法ヲ制定シ山形縣震災地飽海東西田川三郡罹災民ヲ救濟セラレシトテ請フノ書	十三丁

酒田私設鐵道利子補給ノ儀ニ付請願
酒田私設鐵道利子補給ニ關スル請願
最上川治水ノ儀ニ付請願

十七丁
二十一丁
二十四丁

明治廿七年山形縣震災概況

明治廿七年十月廿二日我山形縣ノ地大ニ震フ實ニ東北地方振古未嘗有之稱ス而シテ生靈ヲ殘害シ屋宇ヲ倒潰シ山野爲メニ罅裂堤路爲メニ凸凹其勢甚ラサルナキ慘毒ヲ被リタルモノハ飽海郡ヲ最トシ東田川郡之ニ亞キ西田川郡又之ニ次ク其當時ノ慘狀ハ有志者ノ組織ニ係ル救濟義會ガ會テ四方ニ檄シテ天下ノ志士文アリ能ク萬般事實ノ梗概ヲ悉クセルヲ以テ先之ヲ爰ニ抄出

災義捐金募集の概

變災の起るよきもの素より多し浪波山の如く天を蹴り陸を洩し屋舎流失人畜溺死するもの洪水より慘なるはなし烟瘴空に漲り家を焚き倉を焼き市街灰土を爲り財寶烏有に歸するは火災より猛なるはあし然り而して洪水の來る兆あり火災の起る形あり早く之れが機を察し能く之れが所を爲せば或は其侵害を免るゝを得べし若し夫れ地震の害に至りては轟然一動天柱折れ地維缺け俄然として山崩れ水涸れ樓閣破壊家屋潰倒人を殺し畜を害し桑田碧海倏忽一變し

其悲悽慘憺孰れか是れより甚しきものあらんや。往古は暫く置き、近來磐梯山の破裂、熊本の激震、尾瀨の劇震の如き、最も其慘狀を極めたるものなり。吾人嘗て之れを耳にし、惻然悲酸、寒からずして慄するもの蓋し久し。何ぞ圖らんや。其劇變の目下に起り、慘禍の頭上に墜ちんとは、嗚呼、其疼痛荼毒、肉を刺し骨を刻む。筆舌寧ろ能く之を悉すを得んや。

抑我、か莊内は東北の富境を以て目せられ、田野肥沃、山河廻繞して、北方は遙に日本海に面し、漕漕の利、運漕の便、大に貨殖の道を資け、家給人足り、富商豪農、物として缺けたるはなし。殊に酒田港の如きは、日本海岸の要港にして、帆檣林立、買船幅濶し、人烟繁華、民各々其業を樂む。未だ嘗て流離口を糊するの苦みを知らざりし。近來時勢の變遷に依り、舊來の商賈稍衰微の傾向あり、加ふるに數々洪水汎濫して、港口變更し、砂流れ水淺く、船舶を容るゝに足らず。是に於て築港治水の工を起し、鐵道布設の學を企て、現時の衰微を振ひ、將來の隆盛を開かんとす。而して事業未だ就らず、突然、此の一大災害に罹り、昨日大厦軒を並べ、商估雜沓、綺羅相望み、管弦絶へざりし巷は、今や蕩盡して跡なく、秋風冷雨、滿目荒涼として、唯枯木に寒

鴉の鳴くを見る。一望一吊、今昔を懷想すれば、夢の如く、幻の如く、誰か徘徊涙を攪らざるものあらんや。請ふ吾人、其慘狀の概略を述べ、周く天下に語けん、とす。儻し仁人義士、あらば多少の資を投して、遭難者の急を濟はれよ。

大震災の起りしは、實に明治二十七年十月二十二日午後五時三十七分なり。此日や陰雲四に塞り、天日晦冥、風位定らず、物象暗慘として、冷氣膚に透り、二時より三時に至り、雨驟かに來り、積ぐに霰を以てす。雲霧益々密にして、冷氣大に加はる。人或は天候の異常なるを危ふむ。三時より或は霽れ、或は雨ふり、以て黃昏に至り、腥風暖を送り、心氣殊に悪し。倏ちにして、西南の方位に當り、轟然鳴動、其響百雷の一時に落ちたる如く、人皆驚倒駭絶、其何んの故なるを知らず。俄然として上下震動、壁を排ひ、襖を碎き、柱折れ、櫓傾き、棟梁崩壞して、家屋將半を倒すが如く、其勢迅激にして、親子相扶け、夫婦相顧みるの暇なく、狼狽慌忙、僅かに身を以て逃れて、戶外に出づれば、烟焰四方に起り、地維龜裂し、砂水噴出して、平地波浪渦き、加ふるに西北風急にして、火勢當るべからず。老弱男女の走り出でんとして、半身柱櫓の間に挾まれて、未だ死せざるもの、瓦石の爲めに、其頭腦を破らるゝもの、手足を折り、腰

肩を挫くもの烟に迷ふて狂奔するもの哀號苦叫の聲。焚屋燦瓦の響に和して。慘憺名狀すべからず。今夫れ焚死せるものを數ふれば七百餘名に上り。其僅かに身を以て免れたるものと雖も。重傷又は微傷を負はざるなし。而して其家屋土藏の焼失潰倒せるものは三千餘戸に下らず。震後二旬を経て餘燄未だ滅せず。強震微震日に十數回を起し。人心恟々として。其堵に安ずる能はず。屋外に野營を張り。或は山林の中に遁逃す。而して莊内の中震動の最も甚しきは。酒田、松嶺、南平田、袖浦、新堀、押切等の町村にあり。道路宅地田畑の別なく。縱横龜裂し。或は土地陥落して家屋を没す。或は山崩れ。泥湧き。良田を害す。龜裂の間より往々砂水を噴出して高さ三丈以上に達し。道路邸地夥しく凸凹を生じ。五尺以上の高低を見るに至る。是の故に其焼失を免れたる家屋と雖。大抵壁崩れ柱挫け。檐傾き梁落ち。或は全く傾斜して。居住の用をなさざるもの亦頗る多し。昨日富森に誇りしもの。今日赤貧洗ふが如く。愴々惶々として。救済を官衙に訴ふるもの擧げて數ふべからず。噫。其劇變は繁華を以て。一方に雄たる都會も。今や此の如し。

官廳公署の吏員及び有志の士は。震後直ちに罹災窮民の爲に。救恤の方を圖り。米

を炊き粥を煮て。其飢餓を凌がしめしもの。單に酒田港のみにして九千餘人に達せり。其他類推すべきなり。又假小屋を設けて。之れに起臥せしめ。而して士民の重傷を負ふものは。假病院に移し。郡費を以て之れを施療し。既にして震災の變。各地に達するや。仁人義士の金穀及び諸多の物品を寄贈して。其救済に充つるもの甚多し。而して我が至仁なる

天皇皇后兩陛下は。辱なくも郡下震災救恤の爲に。金四千圓を下賜せられ。特に東園侍従を派して。親しく震況を巡察させ給ふ。吾人國民たるもの豈に感激して涙を掬せざるあらんや。嗚呼。

兩陛下の斯民を憫む。何ぞ一に此に至るや。

今や秋老ひ風寒く。北國の人民は。將さに皚雪堆裡に。整居の計を爲さんどす。而して昊天吊せず。災厄斯に降り。窮民千百。其家屋を失ひ。茅屋三間。僅に風雨を避け。親子相喪ひ。夫婦相亡ひ。商は以て其基本を得るに由なく。工は以て其技藝を施すに處なく。空しく膝を抱て。飢寒に泣くのみ。觀じ來れば。轉た悲むべく。哀むべきの極ならずや。吏員の奔走救済勉めざるにあらずと雖。仁人の義捐。寄贈厚からざるに

あらずと雖保護未だ周からず需用時に窮す今日にありて尙ほ然り若し夫れ冬風一たび起り飛雪屋を埋むる日に逢はゞ窮乏の氓々其れ能く耐ゆべけんや其の病で斃れざるもの殆んど稀ならん天下茶毒の最たるもの不時の災害に罹るものより痛はしきはなし一朝俄然生路を失ひ親子幽明を異にす誰か亦惻然情動き惘然衷を傷めざらんや嗚呼我か四千萬の同胞は

阿陞下子民を愛恤し給ふ 聖慮を奉体し衣を脱き食を推すの義を擴め罹災窮民の爲に救済保護を計らすして可ならんや

我が莊内は實に富有の地を以て東北に著る而して曩に日向月光阿河の暴水汎濫して飽海郡數十ヶ村を浸害し未だ數月ならずして又此の一大災厄に遭ふ舊來の事業已に沈滞して新奇の工業亦將さに廢絶せんとす今や幸に仁人義士あり奮ふて之れが救済の資を投じ人民頼て凍死を免かれ其業に服するを得ば發憤勉勵漸く氣力を養ひ今より後十數年を経て回復の功を見る甚難事ならざるなり然らば則ち是れ皆諸君の恩賜にして子孫萬世永く其餘惠を拜せんとす豈に感激の至りに堪ゆべんや敢て敬する此の如し

明治二十七年十一月

嗟乎吳天曷ソ斯民ヲ弔レマサルノ甚シキ此ノ年我カ縣下ニ於テ著シキ被害ヲ舉ケ來レハ最初山形市ニ大火アリ建物二千三百五十九棟ヲ燒キ第二次ニ飽海郡ニ暴雨アリ島海山缺ケ下流ナル月光日向ノ二水一時ニ暴漲シテ殆ト全郡ノ半ヲ荒蕪ニ歸セシメ其餘勢最上郡ノ一部ニ及ホシ第三次ニ於テ地震アリ莊内三郡ノ地ヲシテ荒涼ニ化セシメントシ更ニ第四次ニ於テ置賜郡山ノ數郡ニ再ヒ水害アリ幸ニ秋収ノ后ニ係リシモ道路橋梁或ハ缺落或ハ流亡其極溺死者ヲ見ルニ至ル嗟乎吳天曷ソ斯民ヲ弔マサルニ愛ニ至ル我カ縣民ノ不幸モ亦極レリト云フ可シ而シテ此天然ノ不幸ノ上ニ猶人爲ノ上ヨリ被ムリツ、アル不幸アリ請フ之ヲ左ニ述ン

征清ノ役興リテ以來天下ノ視聽此一點ニ湊合シテ他事ヲ顧ルノ遑ナキ場合ニ遭遇セルコト

山形縣ノ土地ハ東京ニ遠隔シテ一方ニ僻在スル上ニ鐵道ノ便ナキヲ以テ公衆多數ノ視聽ニ觸レサルコト

兵革ノ爲メニ國庫ノ豐富ナラサルト公衆モ亦露底ヲ傾ケテ恤兵ノ義氣ニ出タルヲ以テ義捐金等割合ニ少カリシコト

嗟乎我カ山形縣ハ不幸ニシテ此ノ災害ヲ受ケ殊ニ飽海郡ノ如キハ前ニハ水害後ニハ震災ヲ被ムリ爲メニ親戚朋友隣保知己均シク被害者ナルヲ以テ一臂ノ力ヲ掇ケ一椀ノ飯ヲ與フルモノナク單ニ限リアル備荒儲蓄金及四方義捐ノ資ケニ頼リテ辛クモ露命ヲ繋キツ、アルノミ豈寒中ノ衣雪裡ノ屋願ミルノ遠アラシク慘モ亦極レリト云フ可シ

今暫ク爰ニ被害統計表ニ就キ先震災ノ梗概ヲ示サン

燒失ノ棟數 貳千貳百四拾九

全潰則四檐地ニ接シタル各棟數 參千七百七拾參

棟梁ハ折ケ内部ハ毀レタルモ或ル一部ノ爲メニ支ヘラレ四檐悉ク地ニ接セサルモ復タ用ニ堪ヘサル所謂半潰棟數 貳千四百四拾

廢物ニ歸セル建物 小計八千五百六拾貳棟

柱壁等ノ挫折ヨリ内部損傷シテ修補ヲ加フルニアラスハ復タ用ニ堪ヘサル棟數 八千六百六拾七

以上ノ損害ハ頗ル鉅多ナリト雖救助其法ヲ得レハ再ヒ奮觀ニ復スルノ時期アル可キモ更ニ記セントシテ筆ヲ探ルニ堪ヘサルモノハ人畜ノ死亡及負傷者ニシテ今其統計ヲ舉クレハ左ノ如シ

死亡者 七百三十一人

負傷者 九百六十六人

外斃牛馬 百四頭

ナリ而シテ其死亡者タル非業中ノ非業ニシテ灰燼ノ中僅カニ齒牙ヲ留メシモノ瓦石ノ下ニ半身ヲ存セシモノ或ハ親子相抱キテ柱梁ノ爲メニ壓セラレタルモノ或ハ夫婦相前後シ將ニ戸ヲ出ントシテ瓦石ノ爲メニ死ヲ遂ケタルモノ或ハ兄弟枕ヲ並ヘテ焦爛シ骨節ノ一片ヲ留メタル者僕ハ主ノ爲メニ家什ヲ持チナカラ斃ルハアレハ婢ハ竈ノ前ニ焦死セシカ如キハ火ヲ防ントシテ其身先焦レタルモノナル可ク其他一旦家ヲ出シモ炎燄四方ニ蔓リ避クルニ途ナク路傍ノ瓶中ニ入り窒息

シテ死セルアレハ土地解裂ノ爲ニ屍体ノ所在ヲ知レサルモノ等千慘萬憤實ニ名
状ス可ラサル有様ニシテ其負傷者ノ如キモ手ヲ折り脚ヲ挫キ生涯ヲ不自由郷裏
ニ呻吟經過スルモノモ亦少カラス而シテ其生存者ノ安否如何ヲ問ヘハ今ヤ漸ク
東北地方ノ特有タル堆雪四摺ヲ没シ返寒手足ヲ落トシノ時氣ニ向ヒ一椀ノ粥一
縷ノ衣猶且得ルニ途ナク身ハ矮陋ナル飯小屋ニ戸々雜居シテ將ニ來ラントスル
嚴寒ノ三冬ヲ此可憐ナル天地ニ於テ凌ントスルモノ其數幾百千ナルヲ知ラス况
ンヤ一家團樂ノ歡ハ已ニ震災ノ爲メニ奪去セラレタルノ後ナルニ於テヲヤ噫生
者死者幸不幸何レナルヤ疑ハサルヲ得サルナリ暫ク嘆嗟ヲ忍ンテ爰ニ回復ノ
事業ヲ舉ケンニ道路橋梁造築セサル可ラス河川堤防修理セサル可ラス溜井棄ツ
可ラス學校廢ス可ラス今是等必要缺ク可ラサル所ノ費用ヲ積算スル時ハ概テ左
ノ如シ

金七拾萬圓

公共的事業復舊費概算高

而ルニ町村税ノ如キ土功費ノ如キ又ハ縣稅ノ如キモ此年度内ニ於テハ屢々災害ノ
續發アリシヨリ其稅源殆ト涸渴ニ歸セントス先昨年中ニアリテ前後ニ支出セラレ

タル公儲金及縣稅ノ概額ヲ舉クレハ

金八萬圓

山形市ノ火災及飽海郡ノ水害并ニ地
震ノ爲メ備荒儲蓄金ヨリ支出金額

金壹萬圓

一時救急トシテ前者ノ爲メニ縣稅ヨ
リ支出金額

未タ前記ノ復舊費縣會ノ議ニ上ラサルヲ以テ多額ノ支出ニ至ラスト雖爰ニ最近
明治廿三四五三ヶ年間ノ縣稅通常費及臨時費ヲ合算セルモノ、平均ヲ舉ケテ我
山形縣經濟上ノ能力如何ヲ參照ニ供セハ

金參拾壹萬七千六百拾四圓六拾三錢七厘

(二ヶ年總額)

ニシテ之レカ主タル稅源ハ

地價金參千參百六拾八萬六千參百七拾壹圓

戶數拾壹萬七千拾九戶

之レニ商工業其他ノ物件ニ課スル額ハ壹ヶ年多キモ五萬圓ニ上ラス此微薄ナル
財源ヲ以テ通常費ノ三拾萬圓猶尙重ニ苦シムモノ况ンヤ舊發一番シテ縣稅ヲ以

此人民ヲ塗炭ノ中ニ救ンカ此災餘ノ民ハ則縣稅ノ稅源ニシテ之ニ向テ課稅ヲ
 爲シ其金額ヲ以テ此民ヲ救フトモ所謂脛肉ヲ斫リテ口腹ニ充ツルニ一般ナルノ
 ミ是此ノ國家兵革ノ時ナルニモ拘ラス國庫ノ支出ヲ請フニアラサレハ此民ヲ賑
 ハシ否救フノ途ナキヲ信スルナリ
 縣ノ能力ノアラン限リ縣自ラ之ヲ支出シ國庫經濟ノ許シ限リ國庫之ヲ支出スル
 モ素ト是震前ノ事業ヲ復歸セシムルニ過キスシテ縣及國家ニ損アリテ被害者ニ
 利益ヲ與フルニアラス
 而シテ此災餘ノ人民ノ避ク可ラサル負擔ニ歸ス可キモノ猶少シトセス則目下生
 活ノ爲メニハ簡粗ニモセヨ衣食住ノ料ヨリ公共上直接ニハ學校役場道路堤防川
 除溜井等經常費外ノ工費ノ幾分ヨリ間接ニハ氏神ノ祠宇ヨリ菩提寺ノ堂塔ノ修
 補ニ至ル迄皆此種人民ノ負擔ニシテ殊ニ震水害ノ爲メニ被ムル處ノ損失ニシテ
 今爰ニ正確ナル費用ノ額ヲ示スノ違ナシト雖少クモ平年負擔ノ三四倍以上ニ至
 ル可キハ調査上得タル處ノ成績ニシテ疑ヲ容レサル所加フルニ斯害ノ爲メニ荒
 蕪ニ歸セル田畑ノ復舊費用ノ如キ一ニ此被害者ノ頭上ニ戴カサルヲ得サル者ニシ

ラ到底負擔シ得ル所ニアラス故ニ更ニ進ンテ是等ノ生産的事業ヲノ速カニ復舊
 スルヲ得ルノ余カヲ他方ヨリ與ヘテ速成ノ目的ヲ立ツルニアラサレハ當ニ被害
 者將來ノ活路ヲ失フノミナラス從ツテ國家貴重ノ稅源ヲ涸シテ遂ニ國家ノ不利
 益ニ歸セサルヲ得サルナリ

今ヤ内務省ニ於テ技師ヲ被害地ニ派遣シ本縣技師ノ調査ヨリ成レル處ノ設計書
 ニ就キ當否ノ查察中ナリト聞ク故ニ知事モ縣會ノ開會ヲ躊躇セルモ調査濟ミ設
 計定マルノ日ハ直ニ縣會ヲ召集シテ縣ノ負擔ヲ定メ更ニ國庫ニ向テ救濟金及復
 舊工費ノ補助ヲ請求スルニ至ルハ勿論ナリ被害民ノ速ニ此結果ヲ見ノコトヲ望ム
 ハ大旱ノ雲霓モ亦當ナラサルナリ
 國家ハ西清磨懲ノ出師ノ爲メニ已ニ壹億五千萬圓ノ支出ヲ要シ前途猶豫メ測ル
 可ラサルモノアリト雖帝國四千萬人民ノ全力ヲ擧ケテ之ヲ荷フニ於テ何ソ憂フ
 可キ事カ之レアラシ之ニ反シテ吾カ被害民ノ如キ之ヲ國家ノ大体上ヨリ一見ス
 ル時ハ微々タル一小部分ニシテ此微々一小部分ノ區域ニ過キサレハコソ假令共
 同義務トシテモ到底負擔シ得ラレサル次第ニシテ今爰ニ未定ニ屬スル國庫ニ請

求ス可キ金額ヲ假リニ一括シテ之ヲ

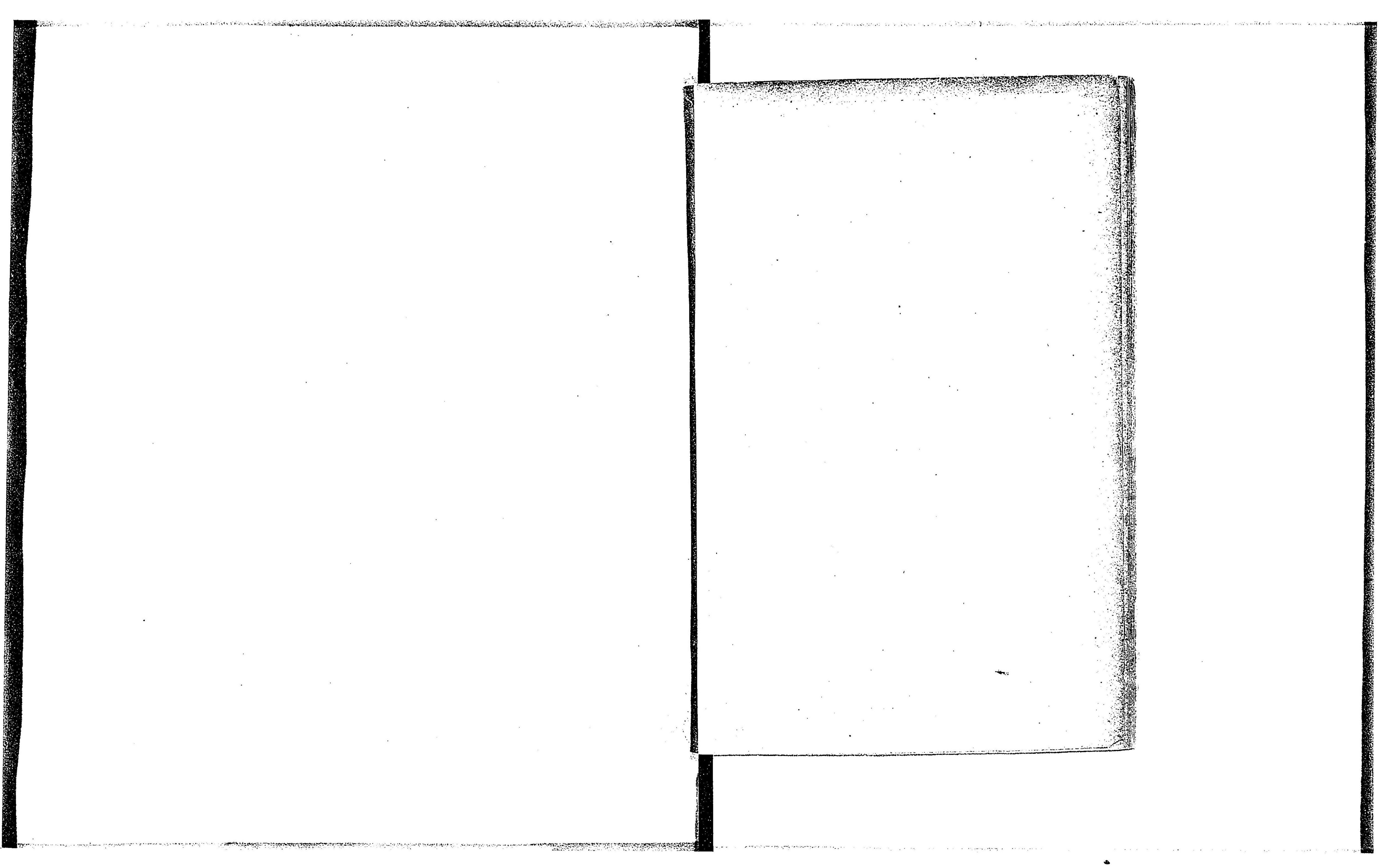
金參拾萬圓

トセンカ國庫ノ收入金九千萬圓ニ比例スル時ハ僅カニ參百分ノ壹ニシテ轉シテ之ヲ帝國ノ人口四千萬人ニ割リ當ルト假算スレバ壹人ニシテ金七厘餘毛ノ資ヲ割與スルニ過キスシテ同胞凍餒ノ急ヲ救フニ至ル而シテ爲メニ蘇生スルモノ實ニ七拾八萬貳千四百五拾人ノ我カ縣民ナリ一片ノ義アルモノ一掬ノ涙アルモノ誰カ之ヲ高價ナリト云ンヤ畏クモ憂キニ

兩陛下内帑ノ資四千圓ヲ賜フテ其急ヲ救濟セラレタルノミナラス特ニ東國待從ヲ派シテ普ク被害人民ヲ慰撫セラル縣民此優渥ナル 聖恩ニ浴シテ共ニ感泣ニ堪ヘサル所夫レ 聖旨ヤ斯ノ如シ國家タルモノ此 聖旨ニ對シテモ國家多事ノ辭ヲ以テ袖手シテ斯民ヲ救濟スルノ餘力ナシトスルカ齊シク同胞タルモノ此凍餒ノ中ニ呻吟シツ、アル兄弟姉妹ヲ傍觀シテ獨リ飽暖ヲ食ルノ徒アラン否々決シテ之レナキヲ信ス況ヤ震水害ニ關スル救助ノ事ハ國家己ニ其例アリ苟モ救濟

ス可キノ事實アリテ猶之ヲ不問ニ措ンカ國家ノ人民ニ對スル甲乙厚薄アルノ譏リヲ免レント欲スルモ豈得可ケン哉堂々タル東洋ノ立憲帝國ニ於テ如此ノ偏頗ノ處置ハ萬々之レアル可カラス爰ニ遇震ノ概況ヲ陳ヘテ普ク天下ノ公衆ニ訴フルヲ爾

明治廿八年一月



山形縣震災被害一覽表

町種別	郡別		飽		海		郡	
	別	村別	全戶數	別	全	別	全	
酒田町	別	酒田	四〇〇	四〇〇	三	三	三	三
		松嶺町	三〇〇	三〇〇	三	三	三	三
上柳村	別	上柳村	三〇〇	三〇〇	三	三	三	三
		內鄉村	三〇〇	三〇〇	三	三	三	三
田澤村	別	田澤村	四〇〇	四〇〇	三	三	三	三
		北俣村	三〇〇	三〇〇	三	三	三	三
南平田村	別	南平田村	四〇〇	四〇〇	三	三	三	三
		東平田村	四〇〇	四〇〇	三	三	三	三
北平田村	別	北平田村	三〇〇	三〇〇	三	三	三	三
		中平田村	三〇〇	三〇〇	三	三	三	三
鶴渡川原村	別	鶴渡川原村	三〇〇	三〇〇	三	三	三	三
		西平田村	三〇〇	三〇〇	三	三	三	三
上田村	別	上田村	三〇〇	三〇〇	三	三	三	三
		本橋村	三〇〇	三〇〇	三	三	三	三
一條村	別	一條村	三〇〇	三〇〇	三	三	三	三
		觀音寺村	三〇〇	三〇〇	三	三	三	三
大澤村	別	大澤村	三〇〇	三〇〇	三	三	三	三
		日向村	三〇〇	三〇〇	三	三	三	三
西荒瀬村	別	西荒瀬村	三〇〇	三〇〇	三	三	三	三
		南遊佐村	三〇〇	三〇〇	三	三	三	三
稻田村	別	稻田村	三〇〇	三〇〇	三	三	三	三
		西遊佐村	三〇〇	三〇〇	三	三	三	三
遊佐村	別	遊佐村	三〇〇	三〇〇	三	三	三	三
		旅岡村	三〇〇	三〇〇	三	三	三	三
全	別	全	一六五	一六五	三	三	三	三
		全	一六五	一六五	三	三	三	三
燒	別	燒	一八四	一八四	三	三	三	三
		燒	一八四	一八四	三	三	三	三
全	別	全	一八四	一八四	三	三	三	三
		全	一八四	一八四	三	三	三	三
潰	別	潰	一八四	一八四	三	三	三	三
		潰	一八四	一八四	三	三	三	三
半	別	半	一八四	一八四	三	三	三	三
		半	一八四	一八四	三	三	三	三
潰	別	潰	一八四	一八四	三	三	三	三
		潰	一八四	一八四	三	三	三	三
破	別	破	一八四	一八四	三	三	三	三
		破	一八四	一八四	三	三	三	三
死亡者	別	死亡者	一八四	一八四	三	三	三	三
		死亡者	一八四	一八四	三	三	三	三
負傷者	別	負傷者	一八四	一八四	三	三	三	三
		負傷者	一八四	一八四	三	三	三	三
馬牛	別	馬牛	一八四	一八四	三	三	三	三
		馬牛	一八四	一八四	三	三	三	三

山形市外拾郡一市水災被害物件調査表

種別	人ノ死傷		建造物ノ被害			浸水總反別	耕地ノ被埋没		山林原野ノ被埋没		橋梁		堤防ノ破壞		道路ノ破壞		船舶ノ流失
	死	傷	戸	戸	戸		反歩	反歩	反歩	反歩	破損流失	箇所	箇所	箇所	箇所	失	
山形市	1	1	1	1	1	18,900	3,390	10	3	3	4	70	4	4	2,613		
南村山郡						18,900	3,390	10	3	3	4	70	4	4	2,613		
東村山郡						7,500	10,400	10	3	3	4	70	4	4	2,613		
西村山郡						7,500	10,400	10	3	3	4	70	4	4	2,613		
北村山郡						7,500	10,400	10	3	3	4	70	4	4	2,613		
最上郡						8,800	1,000										
東田川郡						8,800	1,000										
西役賜郡						3,900	10,150										
東役賜郡						1,900	11,101										
米澤市						10,100	1,500										
南陽郡						10,100	1,500										
合計	2	2	1,338	3	2	115,600	30,900	33	11	11	13	210	13	13	10,400	4	

飽海郡月光日向兩川水災物件及損害概算表

最上郡ニ於テ同時ニ水害ヲ受ケ少カラサル損害ヲ被リシモ正確ノ調査ナキヲ以テ之ヲ除キタリ

死	死亡家畜	二三人	五〇〇圓〇〇
死	死亡人	一〇頭	三三二四圓〇〇
建	建築物及崩潰	五一戶	一三三三〇圓〇〇
全	破損及浸水	一一二二戶	一二六七八九圓〇〇
田	畑ノ流	一〇一六九二六步	三二七八九〇圓〇〇
田	畑ノ年季荒地	四二七四二一步	九六三〇一圓八九
田	畑毛上ノ損失	一四八七〇〇二七步	一八二七圓〇〇
宅	地ノ流	八四一二四步	一四一八圓五〇
山	林原野ノ流	三一〇一四一〇步	三〇二四〇圓〇〇
用	惡水路破損	二四所	五九三八圓三〇
道	路ノ破損	三九八七間	八八二圓〇〇
川	除ケ破損	二六所	四〇〇七圓〇〇
橋	梁ノ破損	八一所	一五六圓〇〇
橋	梁ノ破損	二八所	二〇九三五一圓七〇
堤	塘ノ決潰	一四七七七間	二五三七六圓〇〇
雜	種ノ流損		九一九七三一圓三九
合	計		

明治廿七年五月廿六日山形市燒失財產統計表

山形市	鐵砲町	坪數	家	土藏	小屋	個建	價建	價財	價產	價額計
全	材木町	一、三三六	三	三	二六	六四	六、一〇三	三、〇三三	三、〇三三	九、一四四
全	香澄町	一、八六五	九	一	七	一五	八〇五	二七〇	一、〇七五	一、一七五
全	七日町	一、七九	一	一	二	一	五五、六六五	三六、七七三	二七〇	九、二四三
全	銀師町	八、六三〇	三	六	二七	六六	六、四八六	六、〇八四	一、二五七〇	一、二五七〇
全	塗師町	九、四九	〇	一	一七	六二	五、五五〇	一、三三九	一、九〇五	一、九〇五
全	地蔵町	五、六五	一	一	一六	三三	九、九八	七、六六	七、六六	一、七六四
全	蠟燭町	一、三九〇	三	一	三	三	三、三三三	二、八八六	二、八八六	六、一五四九
全	桶町	八、四二	三	九	一一	五五	七、八八五	五、八五四	一、三三九	一、三三九
全	横町	二〇六八	五	二〇	二四	一〇三	二、九九六	一、五八四	一、五八四	四、五六四
全	二日町	一、五九七	五	一〇	四七	一〇八	九、七〇	一、七三三	一、七三三	二、七三三
全	三日町	四、三〇九	三	四	一三	三〇	一、二一三	一、〇八九	一、〇八九	二、二〇二
全	三日町	四、三〇九	三	四	一三	三〇	一、二一三	一、〇八九	一、〇八九	二、二〇二
全	飯訪町	二、六三四	六	六	六三	一三四	三、四九四	一、三五六	一、三五六	四、八四九
全	小姓町	七、〇三九	一	三〇	九六	三〇五	一〇、三三三	一、三六三	一、三六三	一、三六三
全	八日町	四、三六六	二	四	一〇八	二七	四、四九三	八、六〇二	一、〇九四	一、〇九四
全	十日町	七、六六五	二	二	一六	四九	一、六三三	三、八八六	三、八八六	四、九〇三
全	拾物町	六九	一	一	一	三	一、〇〇〇	二、五〇	二、五〇	二、五〇
合	計	四、五八七	一一八	三、四七	八八四	二、三五九	五、六九六	九、三六三	一、五〇六	一、五〇六

震災復舊工事設計豫算表

名郡		工事種別	工費設計豫算額	同上平均十分ノ九 假定補助額	同上十分ノ一 假定關係町村負担額
關係町村名					
南平山村大字砂越	古沼堤防	六〇七、一八五	五四六、四六六	六〇七、一八九	
全村大字飛鳥外一	公義堤防	二、三三、〇三七	一九一、七九二	二、三三、一〇三	
全附大字橋外二	外堤護岸	三、三三、〇三三	二、八八九、〇一一	三、三三、〇〇二	
全村外五ヶ村	泉谷地溜池堤	一、一四、五八六	一、〇〇三、二五三	一、一四、五八四	
同上	山谷溜池堤	四五七、九九六	四〇七、五一九	四五二、八〇〇	
同上	同上附屬	九三八〇	八、四四二	九三八	
同村大字山谷	西山溜池堤	二、九三、〇四〇	二、六三三、九三六	二、九三、一〇四	
同村大字飛鳥	惡水路溝	二、八八九、〇八八	二、六〇〇、一七九	二、八八九、〇〇九	
酒田町	柳小路溝渠外敷ヶ所	一、二三、六四九	一、〇一〇、八四三	一、二三、六四九	
同	日和山下道路外敷ヶ所	一、七六、九二二	一、四九二、二九九	一、七六、九二二	
上郷村大字山寺	糠田溜池堤	五三、一七六〇〇	四、七八五、八四〇	五三、一七六〇〇	
同	小出川原護岸	三、三三、一五三	二、八九九、三七七	三、三三、一五三	
同村外三町村	上堰溝渠	一、七〇、三九〇	一、五三三、五一一	一、七〇、三九〇	
同	心光寺溜池堤	二、四八九、三〇〇	二、二四〇、三七〇	二、四八九、三〇〇	
同	摺光寺同上	一、五六、〇一〇	一、四〇四、〇九〇	一、五六、〇一〇	

海		工事種別	工費設計豫算額	同上平均十分ノ九 假定補助額	同上十分ノ一 假定關係町村負担額
關係町村名					
内郷村大字小見	護岸沈床	六、四〇、九四三	五、七六八、四六三	六、四〇、九四〇	
同村大字土淵	溜池堤	一、〇九、七七七	九九八、七九〇	一、〇九、七七七	
同	同上	五〇九、〇一一	四、五八、三八一	五〇九、〇一一	
同	内提用水溝路	二、四〇、三五九	二、二六、二九二	二、四〇、三五七	
東平田村大字生若	二ツ山溜池堤	七、七六、六二〇	六、九八九、五八八	七、七六、六二二	
同	同願瀧山溜池堤坊	三、四四、一七三	三、二七九、三六	三、四四、一七三	
同村大字北澤	赤坂道路	三、三三、五三七	三、〇〇三、一一〇	三、三三、五三七	
同	同上	六、八、六〇一	六、二、七五八	六、八、六〇一	
同村大字北澤	道路溝渠	五、三二、四九九	四、七八三、〇四六	五、三二、四五〇	
同上	同上	三、二九、九〇七	二、九六三、六一六	三、二九、九〇七	
北保村	道路堤防溝路	五、七、七〇二	五、二〇〇、一一一	五、七、七〇一	
中平田村大字小牧	西畑堤防	六〇、六、九九一	五、四、五九九	六〇、六、九九九	
四平田村外一ヶ村	切添溝路	一、三三、〇〇〇	一、一一、四〇〇	一、三三、〇〇〇	
鶺鴒川原村	初瀬堤防	六、一四、三〇七	五、二二、八七六	六、一四、三〇三	
大澤村大字大蔵	道路外敷ヶ所	九、五、八三六	八、六三、八五三	九、五、八三四	
同村大字下河津	若神子土橋	一、八二、六九六	一、六四、四二六	一、八二、七〇	
同村大字上河津	道路溝路	二、〇三、四〇〇	一、八三、〇六〇	二、〇三、四〇〇	
磯岡村大字鹿ノ澤	大澤溝路	一一〇、九五八	九九九、八六二	一一〇、九五八	
同村大字杉澤	道路、橋梁	九、六、五七九	八、六九、一九二	九、六、五七七	

郡				
觀音寺大字北仁田	同上	ヨドリ川溝路上	五四二、三八三	五四、二二六
高瀬村大字北目	同上	北目溝路上	六六一、九八一〇	六六一、九八一
同村大字直世	同上	石目溝路上	一、二五四、四一〇	一、二五、四二四
日向村大字赤崩	同上	道路堤	七、五〇一、六七五	六、七五、一〇七
同村大字升田	同上	道路溝渠	七、七三三、九七七	六、九六、四四三
同村大字上	同上	橋梁	二、三九九、九七三	二、一五〇、九七六
吹浦村	同上	龍淵川除梁	三、四九九、一四九	三、一四、三三三
同荒瀬村	同上	牛渡川除	四、七九五、六六八	四、三三、六二二
遊佐村	同上	豊井溝渠	一、三三三、九一八	一、〇〇、五二六
同上	同上	窪川原石堤	一、一六五、八〇〇	一、〇〇、四九三
日向村大字泥濘	同上	下野澤橋梁	三、〇四四、四三三	二、七三、九八八
同上	同上	上川原道梁	一、三三〇、四三〇	一、二八、七三六
同上大字草津	同上	同橋梁	六〇三、三四	五、四、二九二
高瀬村大字丸子	同上	同橋梁	一、一七、七〇八	一、〇、四三三
同村大字直世	同上	同橋梁	一、四、二九六	一、二、一六六
同村大字當山	同上	同橋梁	八、八八、四四〇	四、三、〇〇〇
			七、九、九五六	八、八、八四
			八、一、三三八	七、三、二二三

東田川				
日向村大字升田	逆道	二、九九四、五六五	二、六九五、一〇八	二、九九四、五七七
新井田水利組合	堤防	五、五八八、五九〇	五、〇九、七三三	五、五八八、五九九
同	堤防	五、九九、九六七	五、三、九七〇	五、九九七
荒瀬川水利組合	堤防	三、一七五、三四九	二、八五七、八一四	三、一七五、三五五
五登瀝池水利組合	堤防	五、九四五、〇二八	五、三、五〇、五三三	五、九四五、〇三三
荒瀬川止瀝水利組合	堤防	三、八八二、〇九一	三、四九三、八八一	三、八八二、〇九九
合	堤防	八、三、一三三	七、三、九〇三	八、三、一四四
遊佐止瀝水利組合	堤防	一、九六八、〇二四	一、七、七、二二二	一、九六八、〇二七
日向川水利組合	堤防	八、五〇五、六七一〇	七、六、五五、一〇三	八、五〇五、六七一
月光川水利組合	堤防	二、九五五、七三六	二、六、六〇、一六二	二、九五五、七四
飽海郡負担	堤防	四、八、五〇、〇三七	四、三、六、五三三	四、八、五〇、〇三七
小計		四、八、五〇、〇三七	四、三、六、五三三	四、八、五〇、〇三七
新堀村	護岸、道路堤	二、六八三、七〇〇	二、四、一〇、五三三	二、六八三、七〇
十六合村	護岸	一、八一、五二〇	一、六、三、三六八	一、八一、五二
大和村	道路、堤	一、四、〇〇〇	一、二、七、二六〇	一、四、〇〇〇
廣野村	溝渠	一、六、二、〇〇〇	一、四、六、二、五〇〇	一、六、二、〇〇〇
常萬村	堤塘、溝渠	一、七八、二五〇	一、六、〇、四六一	一、七八、二五
余目村	堤塘、溝渠	三、三、七、五〇〇	二、〇、八、五七六	三、三、七、五〇〇
柴原村	溝渠	五、四、〇〇〇	四、八、六、〇〇〇	五、四、〇〇〇
千河原水害組合	堤塘	五、二、九、七〇〇	四、六、一、五八三	五、二、九、七〇

郡	郡川田西	
	小計	通計
長沼冠水利	溝防護岸	五二四九三六八一六
組赤川水利	堤防護岸	四六三、四四三、三三
組北楯大堰水利	溝渠護岸	一五、三三、七五八
合計	合計	五二、四九三、六八五

本表ハ廿七年中莊内三郡ニ起リタル震水災ノ爲メニ復舊事業トシテ設計セル工費ノ豫算ニ係ル而シテ此ノ他同年十二月中ノ南村山郡外七郡ノ水害ニ依リ前同一事業トシテ要ス可キ設計ノ豫算ハ未定ナルヲ以テ本表ニ示シテ得サルノ遺憾アリト雖其概算上拾五六萬圓ノ鉅額ニ上ルハ疑ハサル所ニシテ彼是ヲ通算スル時ハ殆ト七拾萬圓ニシテ山形縣々税ノ貳ケ年餘分ヲ要スルノ割合ナリ然レモ本縣ニ於テハ客年中數回災害ノ續發アリシヨリ調査上多分ノ日子ヲ要セルヨリ是レ等工事費ノ豫算ニ對シテハ猶調査ノ整理セサルアリテ未タ縣會ノ決議ヲモ

見ルニ至ラサリシハ實ニ遺憾ニ堪ヘス爲メニ他日本費補助請求ノ帝國議會ニ提出ノ曉ニハ其金額ニ多少増減ヲ生スルハ是亦止ムヲ得サルナリ

尋常小學校舎建築復舊費及經常費豫算表

郡別	町村別	校名	設計總額	假定補助額	假定關係町村額
飽	酒田町	酒田小學校	一三五、四二〇	一一、三三、七九九	一三五、四二〇
	松嶺町	松嶺小學校	一、七、七二〇	一、六、三三九	一、七、七二〇
	内郷村	内郷小學校	一、〇、八、六〇〇	一、〇、八、七六一	一、〇、八、六〇〇
	南平田村	南平田小學校	二、七、七、八九〇	一、九、五、五、六〇一	二、七、七、八九〇
	中平田村	中平田小學校	二、七、七、八九〇	一、九、五、五、六〇一	二、七、七、八九〇
	西平田村	西平田小學校	一、〇、〇、七、〇〇〇	九、〇、七、〇一七	一、〇、〇、七、〇〇〇
	西荒瀬村	西荒瀬小學校	一、〇、〇、七、〇〇〇	九、〇、七、〇一七	一、〇、〇、七、〇〇〇
	本楯村	本楯小學校	一、〇、〇、七、〇〇〇	九、〇、七、〇一七	一、〇、〇、七、〇〇〇
	小楯計	(再築費)	二、四、八、二、一〇一	二、三、七、五、八九九	二、四、八、二、一〇一
	酒田町	酒田小學校	一、六、九、七、七〇〇	一、四、七、七、三九九	一、六、九、七、七〇〇
海	松嶺町	松嶺小學校	五、八、二、九〇〇	四、五、七、四六一	五、八、二、九〇〇
	東平田村	生石小學校	一、〇、〇、三、三〇〇	五、五、八、二、九七七	一、〇、〇、三、三〇〇

震災被害地國縣稅並町村稅水利費(最近三ヶ年平均)比較表
(明治二十八年一月調査)

總計	郡川田西				郡川田東			
	通計	合計	小計	袖浦東郷	合計	小計	廣野新堀常萬	廣野新堀常萬
四九六、七五九	一四三、三三三	一、三〇八、五五〇	一、三三三、三〇〇	一、三三三、三〇〇	二六七、一一〇	一、八五〇、二一〇	一、八五〇、二一〇	二、七一一、一〇〇
四四〇、〇七八	一二八、七九七	一、〇〇五、一一五	一、〇〇五、一一五	一、〇〇五、一一五	二四七、六六二	一、六六五、一〇八	一、六六五、一〇八	二、四七五、七九七
五五三、六〇一	一四、三三三	一、三〇三、四三五	一、三〇三、四三五	一、三〇三、四三五	二〇、〇〇〇	一、八五〇、二一〇	一、八五〇、二一〇	二、七一一、一〇〇
		七、六六九	七、六六九	七、六六九		一、八五〇、二一〇	一、八五〇、二一〇	二、七一一、一〇〇
		四、〇三二	四、〇三二	四、〇三二		一、八五〇、二一〇	一、八五〇、二一〇	二、七一一、一〇〇
		三、九二二	三、九二二	三、九二二		一、八五〇、二一〇	一、八五〇、二一〇	二、七一一、一〇〇
		七、六六九	七、六六九	七、六六九		一、八五〇、二一〇	一、八五〇、二一〇	二、七一一、一〇〇
		三、九二二	三、九二二	三、九二二		一、八五〇、二一〇	一、八五〇、二一〇	二、七一一、一〇〇
		三、九二二	三、九二二	三、九二二		一、八五〇、二一〇	一、八五〇、二一〇	二、七一一、一〇〇
		三、九二二	三、九二二	三、九二二		一、八五〇、二一〇	一、八五〇、二一〇	二、七一一、一〇〇

郡名	町村名	種別	國稅總額	縣稅	町村稅	普通水利及水害豫防組合費		町村稅以下通計
						普通	水害豫防	
海	上郷村	上郷	二、五九九、〇四四	四、五九九、〇四四	一、六六六、五五五	五、四六六、五五五	一、七〇四、〇七五	一、七〇四、〇七五
	松嶺町	松嶺	一、〇八二、〇六三	六、二八六、〇六三	一、三三三、九九九	二、五二九、〇六三	一、〇九四、七二七	一、〇九四、七二七
	内郷村	内郷	三、四〇九、九八〇	一、二四七、三三三	一、六六六、五五五	二、九一四、一三三	一、〇九四、七二七	一、〇九四、七二七
	田澤村	田澤	一、〇八二、〇六三	九、五五二、一四八	一、〇九四、七二七	一、〇九四、七二七	一、〇九四、七二七	一、〇九四、七二七
	北俣村	北俣	一、〇八二、〇六三	五、〇〇九、八八五	一、〇九四、七二七	一、〇九四、七二七	一、〇九四、七二七	一、〇九四、七二七
	南平田村	南平田	七、七〇〇、七四七	三、一四二、三三三	三、一四二、三三三	一、〇九四、七二七	一、〇九四、七二七	一、〇九四、七二七
	東平田村	東平田	六、一四六、一四〇	一、七〇〇、一〇一	一、七〇〇、一〇一	一、〇九四、七二七	一、〇九四、七二七	一、〇九四、七二七
	北平田村	北平田	六、一四六、一四〇	一、七〇〇、一〇一	一、七〇〇、一〇一	一、〇九四、七二七	一、〇九四、七二七	一、〇九四、七二七
	中平田村	中平田	六、一四六、一四〇	一、七〇〇、一〇一	一、七〇〇、一〇一	一、〇九四、七二七	一、〇九四、七二七	一、〇九四、七二七
	鶴渡川原村	鶴渡川原	八、八八二、三三三	一、七〇〇、一〇一	一、七〇〇、一〇一	一、〇九四、七二七	一、〇九四、七二七	一、〇九四、七二七
	西平田村	西平田	二、二二四、六四二	六、三三三、三三三	一、七〇〇、一〇一	一、〇九四、七二七	一、〇九四、七二七	一、〇九四、七二七
	酒田町	酒田	八、四七二、七二七	六、三三三、三三三	一、七〇〇、一〇一	一、〇九四、七二七	一、〇九四、七二七	一、〇九四、七二七
	上田村	上田	六、三三三、三三三	一、六四八、三六四	一、六四八、三六四	一、〇九四、七二七	一、〇九四、七二七	一、〇九四、七二七
	一本橋村	一本橋	八、七五二、〇八六	二、二二二、三三三	二、二二二、三三三	一、〇九四、七二七	一、〇九四、七二七	一、〇九四、七二七
	一條村	一條	三、三三三、三三三	九、六六六、六六六	九、六六六、六六六	一、〇九四、七二七	一、〇九四、七二七	一、〇九四、七二七
	大澤村	大澤	一、三三三、三三三	三、三三三、三三三	三、三三三、三三三	一、〇九四、七二七	一、〇九四、七二七	一、〇九四、七二七
	日向村	日向	一、三三三、三三三	五、五五五、五五五	五、五五五、五五五	一、〇九四、七二七	一、〇九四、七二七	一、〇九四、七二七
日荒瀨村	日荒瀨	五、〇〇〇、〇〇〇	一、〇〇〇、〇〇〇	一、〇〇〇、〇〇〇	一、〇九四、七二七	一、〇九四、七二七	一、〇九四、七二七	

郡	川	田	西	小計														
大	稻	山	湯	豐	榮	京	加	福	袖	念	西	上	温	大	東	鶴	小計	
山	生	泉	戸	田	浦	田	茂	榮	浦	珠	郷	郷	海	寶	郷	岡		
町	村	村	村	村	村	村	村	村	村	村	村	村	村	村	村	町		
七、八、一、三、四、四	二、八、七、八、七、五	一、〇、九、一、九、一、〇、三	七、八、六、四、四、五	一、四、〇、五、〇、五、六	二、七、六、三、三、三	三、四、一、三、三、三	五、六、六、四、四、七	一、一、五、八、五、六、八	二、一、四、一、三、三、三、三	四、〇、六、八、〇、六、六	五、三、〇、八、四、七、五	八、二、七、四、八、八、九	四、八、八、五、九、三	一、九、五、四、三、七、七	六、三、一、〇、五、六、一	六、五、八、〇、一、八、〇	七、六、九、三、七、〇、七	一、四、五、三、八、五、〇、一、五
二、六、五、五、五、九	二、五、〇、三、四、一	二、七、六、六、九、二、四	九、二、七、八、〇、八	二、五、七、三、四、五	一、〇、一、〇、一、〇、一、〇	一、四、三、三、三、三、三	一、七、五、六、九、七、一	七、七、七、七、七、七、七	二、九、〇、九、九、九	六、六、六、九、九	二、九、〇、三、三、三、三	九、七、七、三、九、九	二、一、四、四、一、七、七	一、三、三、七、三、九、五	一、七、六、〇、八、九	一、七、二、六、八、八	五、三、四、四、四、〇、一	二、七、五、三、五、三、三、三
三、八、一、八、七、七、〇	一、〇、四、五、三、八、九	二、七、二、三、三、三、三、三	二、二、二、二、二、二、二	四、〇、二、六、七、七、七、七	一、一、四、一、一、一、一、一	一、三、九、六、一、九、九	一、五、七、七、七、七、七	二、二、二、二、二、二、二	一、〇、四、一、〇、一、〇	二、六、六、〇、三、三、三、三	一、七、二、九、〇、八、六	二、五、六、七、三、三、三、三	一、七、五、五、四、六、七	七、六、九、五、八、七	二、一、五、七、四、八、三	二、五、八、〇、二、七、三	七、五、四、四、四、四、四	五、一、六、二、一、九、九、六
七、九、三、九、七、二	二、八、四、一、一、二	一、四、〇、七、七、四、九	一、三、三、三、三、三	一、三、三、三、三、三、三	一、三、三、三、三、三	七、九、〇、四、九、七	七、九、〇、三、三、三	七、九、〇、三、三、三	二、三、六、六、三、三、三	一、五、一、一、四、三、三	二、三、九、〇、八、八	五、四、四、五、七、七	二、七、九、八、五、九	九、一、五、三、〇、四	八、〇、五、五、〇、八	一、七、九、五、五、九	八、七、七、〇、八、九、〇	六、〇、三、九、二、八、八、六
四、六、一、一、三、三、三、三	一、三、三、三、三、三、三、三	四、一、九、三、九	八、三、四、五、〇	四、二、一、一、四、二	一、七、八、五、八、〇、六	二、三、二、八、八、四、〇、一	二、三、二、八、八、四、〇、一	二、三、二、八、八、四、〇、一	三、〇、〇、一、〇、三、三	三、〇、〇、一、〇、三、三	三、〇、〇、一、〇、三、三	三、〇、〇、一、〇、三、三	三、〇、〇、一、〇、三、三	三、〇、〇、一、〇、三、三	三、〇、〇、一、〇、三、三	三、〇、〇、一、〇、三、三	三、〇、〇、一、〇、三、三	三、〇、〇、一、〇、三、三

田	小	合
田川村	小計	合計
二、五、七、〇、〇、八、六	八、三、〇、六、八、九、八、三	四、二、八、四、一、五、七、二、五
一、〇、〇、三、三、三、三、三	二、六、五、八、二、九、八、八	八、六、三、三、六、二、一
七、〇、二、三、三、三、三	四、一、九、六、四、二、四、五	一、四、七、三、三、三、三、三
一、三、三、三、三、三、三	一、一、三、三、三、三、三、三	三、三、三、三、三、三、三
八、三、一、四、四、〇	五、四、三、〇、一、三、三、三	一、三、三、一、四、四、三、三、〇

上野村内相濟災民書

某等頓首再拜謹テ書ヲ

内務大臣野村子閣下ニ上ル。某等聞ク天其高キヲ稱スルハ覆ハサル無キヲ以テシ。地其廣キヲ稱スルハ載セサル無キヲ以テシ。日月其明ヲ稱スルハ照ササル無キヲ以テシ。江海其大ナルヲ稱スルハ容レサル無キヲ以テスト。

啟聖文武天皇一タヒ寰宇ヲ

御シ。誕イニ欽明ニ授ケ。篤ク聰哲ニ任ス。奮物克ク甄ラカニ。萬揆維レ新ナリ。玉質早ク彰ハレ。金聲夙ニ振フ。綱ヲ攝フルニ冢宰有リ。治ヲ輔クルニ百辟有リ。清輝四海ヲ光ヒ。義風遐方ニ加ハリ。群生顛然トシテ欣載セサルハ莫シ。猗盛ナリト謂フ可シ。圖ヲサリキ天禍ヲ悔ヒス。變災荐リニ臻リ。國難ヲ念ハス。氛厲時ニ昏ラシ。今

天皇親ヲ將師ヲ督シテ。山陽ニ

行狩ス。六師海ヲ絶テ。明威ヲ抗ケテ以テ不類ヲ磨ツ。是ノ時ニ當リ外事多端。内政萬緒。

廟堂ノ上ニ坐シ。聲色ヲ動カサスシテ大譴ヲ決シ。又迎ヘテ緩解キ。機宜誤ラサル者。英才卓犖。時務ニ曉暢スルノ士ニ非サレハ。則チ其任ニ耐ユル能ハサルナリ。

閣下少キヨリ事ニ勤勞シ。諸省ニ歷仕シ。夷險一節。令譽夙ニ著ハレ。上下望ヲ屬ス。

天皇特ニ簡拔シテ諸ヲ顯重ノ地ニ登セ。委スルニ内治ノ資ヲ以テス。天下目ヲ

閣下ノ施爲ニ集メ。而シテ風猷徽烈史冊ニ書シテ絃歌ニ被ル者有ルヲ期ス。

閣下其レ蹇蹇乎トシテ夙夜懈ルニ匪ス。報効ヲ圖ラサル可ケム哉。蓋シ我カ

天皇明ハ日月ニ並ヒ。豈ハ江海ニ侔シク。徳ハ天地ヲ覆載ス。其萬物ニ被ルヤ弘廣ナリ。

閣下宜シク

聖徳ヲ體シ。己ヲ恕リテ人ヲ治メ。惠ヲ推シ恩ヲ施シテ藜氓ヲ矜育ス可シ。宜シク諸國隔閼シ。遐邇異同アリ。蒙施セサルノ物有リテ。慘毒ノ懷ヒ有ラシム可カラサルナリ。某等聞ク天下ノ慘毒ナル者ハ。災孽ヨリ甚シキハ莫シ。災孽

ノ殘虐ナル者ハ。震害ヨリ劇シキハ莫シト。何トナレハ則チ内ニハ禍ヲ避クルノ意ヲ存セス。外ニハ變ニ備フルノ計ヲ設ケス。卒然トシテ足下ニ起リ。突然トシテ頂下ニ落ツ。屋舍之レカ爲ニ傾覆シ。人畜之レカ爲ニ損亡ス。況ヤ山崩レ河塞リ。桑滄一變スル者有ルオヤ。其害ヲ爲ス豈劇ナラスヤ。故ニ國ニ天災地變有レバ則チ

政府輒チ有司ヲ遣ハシテ。其被害ノ情狀ヲ察シ。其輕重ニ從ヒ。救濟ノ道ヲ致ス。斯民ニ愛恤スル所以ナリ。然リ而シテ我カ縣下ノ震災ニ於テ。

政府惠濟ノ義。宜シク宣フ可クシテ未タ宣ヘサルハ何ゾヤ。豈國家多故未タ之ヲ議スルニ暇アラサル邪。將タ之ヲ議スト雖未タ其道ヲ得サル邪。抑モ

閣下遺策有ル歟。何ソ其レ闕爾トシテ久シク聞ク無キヤ。嚮キニ

内務省參事官水野鍊太郎。本縣

知事木下周一。巡察スル所ヲ以テ各

政府ニ報ス。

閣下諸公ト己ニ親シク之ヲ聞ケリ。而シテ猶事情ノ未タ審ニセサル有ルヲ恐

ル。某等狼リニ自ヲ料ラス。敢テ丹欸ヲ陳ヘム。伏シテ哀クハ

閣下惻隱ノ心ヲ某等ノ言ニ加ヘテ。惠濟廣被ノ路ヲ開ケヨ。我カ縣下ノ震災ニ
遭フヤ。實ニ十月二十二日ノ夜ニ在リ。其區域ハ飽海東西田川三郡ニ亘リ
其廣袤ハ十數里ニ及フ。其劇震ノ衝ニ當リ。其慘毒ヲ極メタルハ。酒田。松嶺
南平田。袖浦。新堀。余目。押切。ノ二町五村ト爲ス。夫レ區域三郡ヲ踰ヘス。廣袤
十里ニ過キス。而シテ士民ノ死傷スル者二千六百ニ上リ。家屋倉庫ノ燒燬
倒隕スル者一萬五千ニ下ラス。其他人トシテ微創ヲ負ハサルハ無ク。家ト
シテ傾壞セラレサルハ無シ。隨其殘害亦廣カラス哉。始メ震ノ發スルヤ。轟
然鳴動。響萬雷ノ如ク。耳ヲ側テテ之ヲ聞クニ及ハス。足ヲ投シテ之ヲ避ク
ルニ暇アラズ。上下大ニ震ヒ。棟梁墮崩シ。火災續テ作リ。旋風狂暴。炎烟天ヲ
焦シ。噴水橫溢。激浪地ヲ捲ク。其走り出テントスル者。忽チ空中ニ投セラレ
忽チ裂隙ニ陥リ。忽チ倒柱而ヲ破リ。忽チ解瓦頭ヲ碎キ。或ハ足折レ。腰挫ケ
テ蛇行スル者。或ハ魂ヲ褫ハレ。氣ヲ喪フテ顛墜スル者。或ハ火ヲ避ケテ水
ニ赴ク者。水ヲ逃レテ火ニ入ル者。或ハ覆屋ノ下ニ伏シテ生ナカラ烈火ニ

焚カル、者。救ヒヲ呼ビ。援ケヲ叫ビ。哀哭悲號。其聲急切。人ヲシテ精爽飛越
セシム。其纏カニ身ヲ以テ逃ルル者。前ニ蹶キ。後ニ踏レ。周章狼狽。殆ト九死
ヲ出テ、一生ヲ得タリ。夫ノ屋梁ニ穴シ。障壁ヲ穿テ。脱出スル者ニ至リ
テハ。恍惚トシテ夢ノ如キ耳。其震響ノ急ナル。父子且相拯フ能ハス。又安ソ
家財ヲ顧ミルニ暇有ラン邪。震已ニ定ル。而シテ人皆創痛ヲ扶ケ。衣食ニ是
レ急ニシテ。復一人ノ願ミテ火ヲ救フ無シ。樓閣倉庫。擧ケテ薪燎ト爲ス。餘
烟殘火。三旬滅セス。三郡ノ野焦類無シ。殊ニ酒田港ノ若キハ。北海ノ要港ニ
シテ。富商盛ヲ並ヘ。衆民屋ヲ接シ。賈舶輻湊シ。貨物流通シ。人烟繁華。兩羽ニ
雄タル者。今ヤ悲風蕭條トシテ。目ヲ擧クレバ。焦土。徒ニ燒礎殘瓦ノ途ニ狼
藉スルヲ見ル。而已。嗚呼。昔富厚ニ生レ。財貨庫ニ滿チ。婢妾側ニ侍シ。身ニ輕煖
ヲ被リ。口ハ柔嘉ニ飽キ。行クニ地ヲ踐マサル者。今ヤ蕩然一空。赤貧洗フカ
如ク。襁褓腰ヲ掩ハス。粗糲腹ニ充タス。茅屋三間。僅ニ風雨ヲ禦キ。栖栖惶惶
トシテ。一享ノ飽ヲ求メ。一衣ノ煖ヲ希フモ。且得可カラサルナリ。况ヤ細民
ニ於テオヤ。其辛酸果シテ如何ト爲ス。某等苟モ土毛ヲ食ヒ。氣類ヲ交ユル

者同胞ノ患苦ヲ默視スルニ忍ヒス。便チ胥吏ニ諮リ。徑チニ郡庫ヲ發キ。米ヲ炊キ粥ヲ煮テ以テ災民ヲ濟フ。其來テ救ヒヲ乞フ者。日ニ數萬人ニ下ラス。其家ヲ失フ者ハ。假リニ茅屋ヲ設ケテ之ヲ居キ。之レカ饑寒ヲ凌クノ計ヲ爲ス。其傷ヲ負フ者ハ。假リニ病院ヲ建テテ之ヲ厝キ。之レカ治療ヲ施スノ方ヲ爲ス。又檄ヲ四方ニ飛ハシテ。義金ヲ募集ス。東馳西驅。拮据劬勞。晝以テ夜ニ續キ。未タ曾テ寢食ヲ安セサルナリ。而シテ時多事ニ會ヒ。國民皆軍資ヲ獻納シ。國債ニ應募シ。陸海ノ兵士ニ贈恤シ。軍人ノ家族ヲ扶助シ。費用百出。會計日モ亦給ラス。能ク我カ同胞ノ爲ニ義金ヲ致ス者甚々夥シ。某等夙夜努力スト雖。亦之ヲ若何トモスル莫シ。既ニシテ變災ノ事

上聞ス

天皇

皇后深ク震悼セラレ。軍國多事ノ日ニ當リ。重キテ

聖慮ヲ煩ハサレ。四千圓ヲ下賜シテ災民ヲ矜恤セラル特ニ

侍從東園子ヲ遣ハシテ。郡境ヲ巡察シ。薄子ク吊問ヲ垂ル。猗。

天恩至公。朽瘵ニ播及ス。苟モ生靈有ル者。誰カ感激涕泣セサラン哉。
閣下亦宜シク

聖意ヲ體シ。四方羣生ヲシテ。仁ニ浸シ。義ニ沐シ。景ヲ照ラカニシ。醴ヲ飲マサル者。莫カラシム可シ。而シテ邊土慘裂。方隅陰沈。沈タリ我カ同胞

天恩ノ餘光ヲ拜スト雖。未タ國庫ノ惠濟ヲ蒙ラス。已ニ前澤ニ浴シテ。更ニ後施ヲ覲フ。敢テ饗クコトヲ知ラサルニ非ス。誠ニ止ムヲ得サル者有レハナリ。伏

シテ願クハ

閣下明察ヲ垂レヨ。某等聞ク飢エタルヲ療スルニ鼎食スルヲ期セス。溺レタルヲ拯フニ規行ヲ待ツコト無シト。豈其勢誠ニ急ニ其情誠ニ迫レルヲ以テニ非ス耶。故ニ二十四年。濃尾二國ノ震災ニ遇フヤ。時ノ

内務大臣品川子緊急

勅令ヲ奉シ。大ニ國庫ヲ發キ。百五十萬圓ヲ濃ニ給ヒ。七十五萬圓ヲ尾ニ給ヒテ。其水火ノ急ヲ救ヒ。大イニ休養ノ道ヲ盡セリ。當時或ハ囂囂ノ議ヲ致スト雖。識者皆其機ニ臨ミテ善ク斷シ。變ニ處シテ宜シキヲ得タルヲ稱賛ス。

今我カ縣下ノ震災ヲ以テ。諸ヲ濃尾ノ震災ニ比スルニ。其廣袤ハ復ニ彼
レニ及ハスト雖。其殘劇ハ大イニ彼レニ過クル者有リ。震災調査委員大
森房吉其檢スル所ヲ以テ公言シテ曰ク。酒田ハ名古屋ヨリ激シク。而シ
テ袖浦ハ岐阜ヨリモ劇シト。以テ證ス可キナリ。而シテ

政府未タ國庫ヲ發カス。災民未タ公恤ヲ蒙ラス。日ニ領ヲ延ヘテ以テ

閣下ノ德音ヲ待ツ有ルヤ。耿耿乎トシテ大旱ノ雲霓ヲ望ムカ如シ。茲ニ七旬餘
日。遂ニ果然トシテ。願ミラレス。某等甚感ヒス。例ニ聞ク。嚮ニ

木下周一狀ヲ具シテ上京スルヤ。

閣下邈然トシテ其情ヲ察セサル者ノ若ク。悄乎トシテ官邸ニ公言シテ曰ク。今
海外ニ事有リ。公費多端。國庫乏竭シ。救濟ノ資ヲ支給スル能ハサルナリト。果シ
テ聞ク所ノ若クムハ。某等ノ惑ヒ益解ケス。蓋シ行政ノ要ハ其綱ヲ舉ケテ。其
目ヲ張ルニ在リ。而シテ時ニ否泰アリ。事ニ緊急アリ。其急ニス可キハ之ヲ急
ニシ。其緩ニス可キハ之ヲ緩ニシ。時ニ隨ヒ宜シキヲ制スルハ則チ行政ノ權
ナリ。而シテ天災地變ハ禍ノ大ニシテ害ノ急ナル者ナリ。之ヲ濟フニ時ヲ失

ヘハ。民ノ患將サニ測ラレサラムトス。時ノ否泰ヲ以テ緩慢ニス可ラサルナ
リ

閣下國ノ多故ニ逢ヒ。精神ヲ竭シ肝膽ヲ傾ケテ以テ畫策シ。

聖明ノ治ヲ輔ケント欲ス。其機宜ヲ誤リ。其職責ヲ曠フスルハ。萬萬之レ無シト雖。然
レトモ地方ノ浮沈ニ於テ。恬然トシテ少シモ意念ヲ加ヘサルハ。某等ノ解ス
ル能ハサル所ナリ。某等愚竊ニ以爲ク。今方サニ日旌西ヲ指シテ。禹域震怖ス
義風既ニ暢ヒ。明威大ニ揚ル。跡ヲ滅シ塵ヲ掃ヒ。其梟師ヲ係キ。辮髮ノ君長ヲ
シテ城下ノ盟ヒヲ成サシムルハ。應サニ日ヲ計リテ俟ツヘシ。且ツ也。歐米諸
國正サニ其條約ヲ蓋ム。外人ノ雜居モ。想フニ數年ヲ出テス。然ラハ則チ國勢
一變セン。早ク之レカ處ヲ爲シテ。大イニ農商工業ヲ振作シ以テ國基ヲ牢フ
スルハ。但今日ヲ急ト爲ス耳。是レニ由リテ之ヲ見レハ。地方ノ變災曷ソ忽諸ニ
附ス可ケムヤ。須ラク善ク之ヲ接察シテ。其處置ヲ講シ。之レカ救濟ノ道ヲ盡
シ。萬物ヲシテ通セサル所無カラシムヘシ。嗚呼。我カ同胞非常ノ厄ニ遭ヒ。親
子相見ヘス。兄弟夫婦離散シ。農ハ其田ヲ失ヒ。商ハ其資ヲ亡ヒ。百工手ヲ空ク

シテ爲ス所ヲ知ラス。貨物停滯シ。貧富同ク淪ム。况ヤ震災ノ發セルハ節季秋ニ在リ。民未タ寒ヲ防クノ計ヲ爲サス。漸ク季冬ニ迫リ。北地亟寒。嚴風凜冽トシテ。氷結ヒ雪飛フ。千百ノ災民。纏フニ衣無ク。覆ヌルニ被無ク。竹架席幕以テ風雪ヲ禦キ。粗糲糟糠以テ饑餓ニ充ツ。菽ヲ攤シテ以テ臥スレハ。飛霰枕ヲ叩キ。夢冷ニ魂驚キ。寒氣骨ヲ刺シ。目ヲ舉クレハ。荒涼トシテ。管ニ寒色ノミナラス。影ヲ履ミ心ヲ吊シテ。轉タ怛悵ヲ増ス。且人情忍フ能ハサル者。親子ノ際最モ甚シト爲ス。幼者ハ飢ニ泣キ。老者ハ寒ニ病ム。是レカ子ト爲リ。是レカ親ト爲リテ。其凍饑ヲ熟視スレトモ相拯フノ道無クンハ。則チ其悲痛何如ソヤ。心ヲ槌チテ懊惱シ。仰イテ昊天ニ號哭スル耳。嗚呼。災厄ノ極。古今未タ有ラス。苟モ氣ヲ合ム者。其事ヲ聞キ其情ヲ察セハ。誰カ惻然トシテ懷ヲ疚マシメサラム哉。願フニ濃尾ノ震災ハ。無時ノ時ニ發ス。是ヲ以テ其民。渥ク國庫ノ惠濟ニ浸ス。我カ縣下ノ震災ハ。多故ノ際ニ會フ。是ヲ以テ其民。毫モ政府ノ恩恤ヲ蒙ラス。我レト彼レトハ均シク。是レ國民ニシテ。其災ニ罹ルヤ前後有リ。而シテ

十

政府ノ彼レヲ遇スルヤ。其渥スキ此ノ如ク。我レヲ待スルヤ。其薄スキ此ノ如シ。蓋シ災民亦幸有リ。不幸有ル歟。安ソ賢相朝ニ在ル有リテ。斯民ヲシテ不幸ノ嗟ヲ懷カシム可ケン耶。某等愚竊ニ以爲ラク。

閣下重任ヲ多故ノ際ニ受ク。事大議ニ參スルニ專ラニシテ。而シテ志豐功ヲ樹ツルニ急ニシテ。地方ノ變災ヲ聞クト雖。未タ其處置ヲ講スルニ暇アラサルナリ。

閣下ノ意。蓋シ亦此ノ如キ而已。公費多端。國庫乏竭スト云フハ。抑モ名トスル伎ニ非サルナリ。外事ハ固ヨリ大事ト雖。國民負擔ヲ分ツノ義有リテ存ス。獨リ政府ヲ煩ハスニ非サルナリ。

閣下ノ賢ヲ以テ豈之レヲ知ラサラン哉。伏シテ請フ

閣下過ク慮ヲ定メ意ヲ決シ。濃尾ノ例ニ據リ。國庫ヲ發キテ。以テ救濟ノ道ヲ盡ス可キナリ。夫レ天災地變ハ。逆メ規ルコト能ハス。又安ソ明日何ノ地ニ發セサルヲ知ラム耶。

閣下則チ將タ悉ク廢テテ恤マサル邪。

十一

閣下恤マサラント欲スト雖其レ斯民ヲ若何セムヤ史官ナル者有リ之レヲ紀シテ曰ク某年某月日某國震災アリ民其堵ヲ失フ政府廢テテ恤マスト而シテ職ニ内務ニ當ル者ハ

閣下ナリ則チ將タ後世閣下ヲ議スル者果シテ其職責ヲ曠フセスト謂ハム乎某等甚ク

閣下ノ爲ニ焉ヲ惜ム時今外征頻リニ捷ヲ報シ朝野歡舞シ旭旗ヲ掲ケ奮勇ヲ舉ケテ萬歲ヲ呼ハサル無シ獨リ我カ同胞泣ヲ飲ミ悲ヲ茹ヒ悽愴色無ク樂ミヲ聞イテハ心ヲ拊チ喜ヒニ逢フテハ却テ惋ム首ヲ俛シ膝ヲ頓シ於邑哽結ス未ダ嘗テ眉ヲ揚ケテ高談シ笑ヲ含ミテ歡ヲ叙フル有ラス某等日ニ同胞ノ怛悼悽悴スルヲ見テ獨リ何ノ心カ之レニ安ス可ケムヤ心ヲ剖イテ計畫シ踵ヲ塵リテ奔走シ以テ其救護ヲ悉サムト欲スレトモ微力足ラス費用既ニ罄ク民命繫ク所一縷ノ任ニ在リ其絶ユルト絶エサルト間髪ヲ容レス伏シテ冀クハ

閣下惻隱ノ心ヲ推シテ倒縣ノ危キヲ解キ雲雨ノ澤ヲ施シテ魚眉ノ急ヲ救ヒ我

カ同胞ヲシテ堵ニ安シ業ニ復スルヲ得セシメヨ則チ所謂繁華ヲ枯第ニ生シ豐肌ヲ朽骨ニ育フナリ日光幽ヲ燭ラシ惠濟遠キ無ケム是レ乃チ

聖明光被覆載ノ徳ヲ彰ラカニスル所以ニシテ

閣下行政ノ職責ヲ完フスル所ナリ某等大計ニ昧ク變通ニ達セス獨リ悽悽ノ誠款款ノ愚恠恠乎トシテ自ラ止ム能ハサル者有リ敢テ素懷ヲ陳ヘテ之ヲ

閣下ニ布ク文冗長ニ流レ詞禮ヲ缺ク有リ伏シテ惟ミルニ

閣下其罪ヲ錄セス其意ヲ察シ仁ヲ垂レテ採納アラン威尊ヲ瀆冒シ惶懼已ム無シ某等頓首再拜

明治二十七年十二月

山形縣下飽海東西田川三郡震災救濟委員連署

國稅特別處分法ヲ制定シ山形縣震災地飽海東西田川三郡

罹災民ヲ救濟セラレシテ請フノ書

某等謹テ

衆議院議長楠本正隆閣下ニ白ス我山形縣下飽海東西田川ノ三郡去ル十月二十二

日ノ夜ヲ以テ振古未曾有ノ劇震ニ遭ヒ地陥リ川壅リ俄然柔澗ノ變ヲ見ル其ノ震動激烈ノ衝ニ當ルノ處ハ地皮著シク凹凸龜裂ヲ生シ一昂一低恰モ波濤ノ若ク其差二十尺ニ及ブ者アリ龜裂ノ間往々泥沙ヲ噴出シ馳突横溢四邊ヲ洶没シ宛然淤沼狀ヲ爲セル者アリ肥田之ガ爲ニ陥没シ瓦圃之ガ爲ニ滑沈シ叢林墳刷シ深溝壑壑シ一見人ヲシテ膽ヲ寒フセシム或ハ山腹刮裂シテ泉源ヲ涸渴セシ者之レ有リ或ハ池塘潰決シテ濫漑ヲ杜絶セシ者之レ有リ或ハ道路滑落シテ人馬行ク可カラサル者之レ有リ或ハ隄防崩缺シテ洪水拒ク可カラサル者之レ有リ又川床ノ淺淤シ湖底ノ隆起シ舟棹通セス網罟入り難キ者アリ其ノ民利ヲ奪フヤ勝ケテ數フ可カラサルナリ若シ夫レ屋樓倉庫ノ燒燼潰壞ニ至リテハ更ニ禍害ノ焉ヨリ著大ナル者アリ就中酒田町ノ如キハ其燒失セル者實ニ二千三百餘棟ノ多キヲ致セリ巨塵大舖軒ヲ並ベ宏倉壯廩壁ヲ接シ百貨輻輳シ金融流通シ繁華熱鬧ヲ以テ兩羽ニ冠タル者一炬灰塵ニ歸シ倏忽荒原ト爲リ焚殘ノ礎燒餘ノ瓦徒ニ人ヲシテ昨昔ヲ想ハシムル有ルノミ今ヤ金融窒息シ諸業萎靡シ良商猶ホ其ノ奈何トモスル無キヲ嘆ズ況ヤ其他ニ於テオヤ嗟吁何ノ日ニ復タ舊繁華ヲ見ルヲ得ベキカ松嶺飛鳥砂

越新堀余目押切黒森宮浦等亦之ニ準ズ願フニ夫ノ田圃林藪ノ變廢泉源水路ノ渴絶ノ如キモ亦數星霜ヲ閱スルニ非レバ得テ回復ス可カテズ則チ知ル當ニ商工ノ永ク其疲弊ヲ被ルノミナラズ農圃亦久シク其荼毒ヲ受ケサルヲ得サルヲ是ヲ以テ之ヲ見レバ災民ノ益々困窮ニ赴ク其測ル可カラサルナリ困頓瘁瘵何ゾ能ク租税ノ負荷ニ耐ヘンヤ若シ早ク之ガ處置ヲ爲スニ非レバ數萬ノ民惡ンカ生ヲ安スル所アラソシテ案スルニ曩キニ明治二十四年十月劇震ノ濃尾諸國ニ發スルヤ政府ハ直ニ緊急敕令ヲ發シ百數十萬圓ノ救恤金及ヒ土木補助金ヲ下附シテ焦眉ノ急ヲ拯ヒ又更ニ法律第一號ヲ布イテ數年ノ租税ヲ減免シ以テ大ニ休養ノ道ヲ爲セリ是ヲ以テ災民威ナ其恩遇ノ渥キニ感泣シテ而シテ天下舉ナ其果斷勇決頗ル機宜ヲ得タルヲ嘆美セリ今我三郡ノ震災ヲ以テ之ヲ濃尾ノ震災ニ比スルニ其區域ハ迥カニ彼ニ及ハスト雖其震動ハ則チ彼ニ過クル者アリ震災調査會委員大森理學士其査定スル所ヲ公言シテ曰ク酒田ハ著シク名古屋ヨリ強ク黒森ハ一層岐阜ヨリ烈シト以テ證ト爲ス可キノミ而シテ震災ヲ距ル茲ニ六旬餘日未タ國庫救恤ノ恩澤ニ

浴セス亦未タ租稅減免ノ特典ヲ迎ヘズ夫レ我三郡ノ民ノ濃尾ノ民ト國民タルニ於テ何ア擇パン而シテ恩遇ノ獨リ我ニ及ボサル者抑モ何ノ由ル所アヤ嗚呼災民生計ノ艱日一日ヨリ甚シク父子相別レ夫妻相離レ往々生ノ死ニ若カサルヲ説ク者アリ某等日ニ此ノ狀ヲ目スル者惻然トシテ情動キ傷然トシテ心悲ミ曾テ有司ノ心ヲ忖度スルニ違アラサルナリ乃チ敢テ災民ニ代リ直ニ貴院ニ向テ請願ス「國稅特別處分法ヲ制定シ我震災地人民ノ苦艱ヲ速カニ救済センコトヲ仍テ別紙震災損害調査表ヲ添ヘ商量ニ供ス閣下明察速ニ某等ノ願意ヲ採納シ之ヲ院議ニ附サレヨ泣血哀願ノ至リニ堪ヘズ頓首再拜

明治廿七年十二月

山形縣羽前國西田川郡

鶴岡町寶町甲三十六番地土族農

西田川郡震災救済委員

駒 株 廣 運

外二十名

衆議院議長楠本正隆殿

酒田私設鐵道利子補給ノ儀ニ付請願(本書ハ各通)

謹テ貴族院議長楠本正隆殿 賀 茂 郎 君ニ白ス抑東北ノ地ハ古ヨリ殷富ヲ以テ稱セラレ而シテ其阿羽ノ地ハ人口ノ稠キ物産ノ多キ蓋シ東北中ニ冠タリ然レ共元來我國ノ地形タル日本海ニ面セル西方一帶ノ地ハ概チ良港灣ニ乏クシテ運輸交通ノ頻繁ナル今日ニ於テハ東海沿岸ノ良港多キニ競フ能ハサルハ自然ノ數ナリ加之東方面ニハ東京以南ニ東海道鐵道、東京以北ニ日本鐵道線路アリテ更ニ中央山脈以東ノ便益ヲ爲セリ蓋シ一地方ノ利益ハ即チ一國ノ福利ナルカ故ニ自然ニ加フルニ人爲ヲ以テシ益々進ミテ厚生利用ノ道ヲ擴ムルハ國家ノ爲メ喜ブベシト雖モ其東方ハ既ニ至利至便ノ利器ヲ得テ洋々春海ノ如クナルニ際シ西方ハ依然トシテ舊態ヲ變スル能ハス恰モ嚴冬迄寒ノ如キヲ想ヘハ之カ地方ノ民タル者焉ソ意ニ介然タルナキヲ得ンヤ况ヤ東海道鐵道ハ政府ノ直轄ニ屬シ日本鐵道會社ハ厚キ保護ノ下ニ成立シタルニ於テオヤ國會ハ天下有識ノ士ノ集マル所ニシテ且至正至公ノ府ナレハ早ク已ニ其平衡ヲ失ヘルヲ看取シ第一着ニ北陸東北二鐵道ノ起工ヲ決シ今ヤ着々其事業ヲ進ムル

ニ至リタルハ一ニ國會開設ノ賜トシテ某等ノ深ク感銘スル所ナレド其東北線路ノ如キハ高山峻嶺頗ル多ク南ニ板谷峠アリ北ニ矢立峠アリ中央ニハ雄勝峠ノ峻嶺横ハリテ工事ノ進行ヲ阻遏スルカ故ニ其成效ヲ想見スレハ殆ント望洋ノ嘆ナキ能ハザルナリ

某等祖先以來莊内ノ地ニ住シ深ク國家ヲ愛スルト同時ニ又愛郷心ニ切ナリ故ニ地方前途ノ盛衰ヲトシ且東北鐵道ノ工事ニ順便ヲ與ヘントヲ希圖シ地方富豪ニ説クニ鐵道敷設セサルヘカラサルノ理由ヲ以テシ終ニ富豪ノ徒ヲシテ酒田鐵道會社ヲ發起セシムルニ至ル抑酒田鐵道トハ端ヲ酒田港ニ發シ東南行シテ新庄町ニ至リ東北幹線ニ合スル者ナリトス今此酒田鐵道ヲ以テ東北幹線ニ順便ヲ與ヘントスルハ決シテ杜撰ノ説ニアラスシテ證左ノ徵スヘキアリテ存セリ何トナレバ當初當局者ノ慎重ナル計畫ハ工事ハ南北兩端ノ外羽前國ニ在リテハ大石田驛(新庄ヲ距ル四里餘ヲ起點トナセシニ其最上川ハ所謂日本三急流ノ一ニシテ激流奔湍舟楫ニ便ナラス大石田迄ノ材料運搬ニ缺クル所アリ止ムナク不便ナル板谷ノ一方ヨリ工事ニ着手シタルハ明カナル事實ニシテ之カ爲メ國家經濟上ニ不

利ナルハ蓋シ鮮少ナラザルヲ信スレハナリ

酒田鐵道會社ノ形体稍全キヲ致シ地方人民カ多年鬱結セル愁眉ヲ開カントスルニ及ヒ霹靂一聲轟然一動天柱折ケ地維裂ケ家屋ヲ潰倒シ人畜ヲ殘害シ榮枯盛衰一朝地ヲ代ヘ昨日富豪ヲ以テ驕リタル者ニシテ今日ハ既ニ他ノ救助ヲ受クル細民トナレルアリ朝ニハ綺羅ヲ飾リ温袍ヲ纏ヒタル者ニシテ其夕ニハ既ニ襤褸ヲ衣テ凍餒ニ叫フアリ嗚呼悲懷慘愴誠ニ名狀ス可カラサルナリ酒田鐵道發起者ニシテ此災害ヲ受ケタル者頗ル多ク終ニ此事業ヲ廢止セサル可ラサルニ至レリ然レ共此鐵道敷設ノ目的ヤ主トシテ地方衰頹ヲ挽回スルニアリ今一層ノ衰頹ニ臨ミテ之ヲ救済スルノ策如何是レ攻究スヘキ重大ノ問題ナリトス於是乎苟モ地方有志ヲ以テ任スル者ハ千思萬考鄭重ニ親切ニ其救済ノ策ヲ講シテ終ニ一ノ歸著ヲ得即チ鐵道ノ敷設是ナリ遭災ノ當時各黨各派ノ代議士ニシテ被害地ヲ跋渉シ實地ヲ調査セラレタル諸君ニ就キ其高説ヲ叩キタルニ震災療醫ノ策ハ同ク鐵道敷設ノ外ニ出テス某等益々自説ノ信スヘキヲ信シ阻喪セル人心ヲ鼓舞作興シ發起者ヲ奮發セシメテ將ニ解體セントスル事業ノ命脈ヲ繋ケリ嗚呼此慘愴タル苦

心ヲ以テ此經營ヲ爲ス者豈他アランヤ地方救濟ノ道之ヲ捨テ、他ニ一モ取ルヘキナキガ故ナリ思フニ酒田鐵道ノ國家ニ大關係アル彼レノ如ク地方救護ニ功能アル此ノ如キ以テ國家ノ保護ヲ受クヘキ價値アルヲ疑ハサルナリ

今ヤ軍國ノ急アリ此請願ヲ爲スハ衷情安ゼザル所ナリト雖モ死ニ頻スルノ民ヲ救ヒテ將ニ荒蕪ニ委セントスルノ地方ヲ興スハ鐵道敷設ヲ除キテ一ノ良策ナキニヨリ乃チ萬止ム能ハスシテ謹テ此請願書ヲ呈スル所以ナリ伏シテ願クハ院議ヲ賜クシ相當ノ保護ヲ以テ酒田鐵道ヲ成立セシメ災餘ノ人民ヲシテ各々職ニ就キ業ニ安ンゼ賜ハラントヲ某等百拜頓首敬白

明治二十八年一月

山形縣羽前國西田川郡鶴岡町
室町甲三拾六番地士族
震災救濟委員

駒 林 廣 運

外四十八名

貴族院議長侯爵蜂須賀茂詔殿

酒田私設鐵道利子補給ニ關スル請願(本書ハ各通)
某等頓首謹テ

貴族院議長蜂須賀茂詔

衆議院議長楠本 正隆

閣下ニ請願ス某等竊ニ惟フニ方今軍國ノ務頗ル急ニシテ事ノ緊切ナラサルモノハ有用ノ費モ或ハ削減セラレントスルノ際ニ當リ此請願ヲナス衷情ニ於テ甚タ安セザル處アリト雖モ退テ顧ミレハ軍國ノ務タル急ハ甚タ急ナルベキモ之ヲ以テ國家ノ生存發達ニ關スル機能ノ運用ヲ廢ス可キニ非ラス抑交通運輸ノ便否如何ハ實ニ國家ノ隆替ニ關ス是ヲ以テ我國軌今文明ノ進運ト共ニ鐵道布設ノ業日ニ盛ナルヲ致シ暮年ニシテ全國要部ノ線路ヲ貫聯セントスルニ至ル某等國家ノ爲メ之ヲ喜ブ然レモ鐵道ノ用タル普及ニ在リ若シ一部ニ於テ布設セララル、モ要部ノ貫聯ヲ缺クトキハ恰モ人身ニ於ケル半身不隨者ノ如ク他ノ布設ノ鐵道モ亦其用ヲ爲ササルニ至ル夫レ巨萬ノ資ヲ投シテ絶大ノ工ヲ起コシ而シテ徒ラニ半身不隨ノ鐵道ヲ布設スルニ止マルガ如キアラハ啻ニ經濟上ニ不利ナルノミナラス國家ノ爲メニ深ク之ヲ憂ヒザルヲ得ザルナリ某等竊ラ鐵

道布設ノ狀ヲ見ルニ進ムモノハ益々進ミ後ル、モノハ愈々後レテ其流弊ノ起ク
トコロ底止ス可カラサル者アリ乃チ袖手傍觀成ルヲ官設ニ待ツ能ハス奮テ酒田
私設鐵道會社ヲ創設シ遂ニ明治廿七年九月八日ヲ以テ假免狀ヲ附與セラル、ニ
至レリ某等爾來拮据經營是レ日モ足ラス若々歩ヲ進メテ將ニ大成ヲ告ケントスル
ニ當リ不幸ニシテ未曾有ノ大激震ニ遭遇シ爲メニ地方經濟上ニ一大頓挫ヲ生シ
成ルニ垂ントセシ會社創設ノ業ヲシテ一朝土崩瓦解ノ窮狀ニ陥ラシメタリ某等ノ
酒田鐵道ヲ私設會社ノ事業トシテ經營シタル者ハ決シテ私利ヲ求ムルガ如キ心
ニ出ツルニ非ラス誠ニ此鐵道ノ布設ニ由ラスハ地方全般ノ福利ヲ全フスル能
ハサルヲ以テ官設ヲ待ツニ暇ナク遂ニ私設會社ヲ創立スルニ至レルナリ而シテ
地方ハ震災ノ爲メニ非常ノ損害ヲ蒙リ又豫期ノ如ク該事業ノ成功ヲ見ル能ハ
サルニ至ルト雖モ地方全般ノ爲メ之ヲ計ル今日ノ事鐵道布設ヲ除キ他ニ救濟ス
ルノ策ナキニ依リ災餘空竭ノ財盡ヲ叩キテ其素志ヲ貫徹セント欲シ百方籌策ス
ル處アレモ時恰モ軍國ノ事急ナルニ際シ未タ當初ノ目的ヲ奏スル能ハス某等痛
嘆ノ至リニ堪ヘス某等思フニ酒田港ハ東北要衝ノ區ニシテ將來多望ノ地トナス

其ノ鐵道布設ノ如キニ至リテハ實ニ日本海ニ面スル沿岸一帯ノ利害ニ關シ決シ
テ區々一地方ノ利害ニ止マラザルヲ信ズ而シテ不時ノ天災ハ某等ヲシテ飢寒ニ
苦マシムルノミナラズ施テ鐵道布設ノ事業ヲ阻止セシムルニ至リテハ實ニ國家
ノ不幸ト謂フ可シ某等是ニ於テ乎又策ノ施ス可キトコロナク遂ニ酒田鐵道布設
ノ事業ニ對シ年限ヲ期シテ利子ヲ補給セラレンコトヲ請願スルノ止ムヲ得ザルニ
至ル嗚呼某等此ノ軍國ノ務方サニ急ナルニ際シ這般ノ請願ヲナス實ニ衷情ニ於
テ忍ビサル處ナリト雖モ之ヲ大ニシテ國家ノ隆替ニ關シ之レヲ小ニシテ地方ノ
興廢ニ係ルノ一大事ナルヲ以テ敢テ情ヲ布ク望ムラクハ閣下某等ノ衷情ヲ憫諒
シ速カニ院議ヲ盡クシ酒田鐵道ヲ興起スルニ足ルヘキ利子ヲ補給シ以テ素志ヲ
貫徹セシメ以テ此不幸ノ人民ヲ救濟セラレンコトヲ某等惘歎屏營ノ至リニ堪ヘズ
某等頓首謹テ請願ス

明治二十八年一月

山形縣羽後國飽海郡酒田町
下内町二十九番平民
酒田私設鐵道株式會社發起人總代
野附友三郎
外十九名

貴族院議長侯爵峰須賀茂韶殿
衆議院議長 楠本 正隆殿

最上川治水ノ儀ニ付請願

抑モ最上川ハ源ヲ羽前岩代兩國ノ境界ナル吾妻嶽ニ發シ東西南置賜三郡ノ水ヲ合セ東西村山二郡ヲ過キ透迤北行シテ北村山最上兩郡ニ入リ七郡ノ水湊合シテ一大流域トナリ忽チ山岳ノ扼スル所ト爲リ屈折抑滯怒リテ東西田川飽海三郡ノ平野ニ瀉キ洶涌奔騰羽後國酒田港ヲ經テ一駛日本海ニ入ル其長サ殆ント六十里實ニ本邦三大急流ノ一トス

斯ノ如ク最上川ハ我山形縣ノ中央ヲ貫流スルヲ以テ皆ニ沿岸人民ニ舟楫ノ利ヲ與フルノミナラス海陸交通ノ便ヲ爲シ凡ソ縣下二市十一郡ノ米穀其他一切ノ物產ヲ北海道及ヒ北陸山陰山陽畿內東海等ノ諸國ニ輸出スルモノ盡ク此レニ由ラサルハ莫ク北海道ノ魚族山陽南海兩道ノ食鹽ヲ始メ其他縣下ノ需用貨物ノ酒田港ニ入リ管内各郡市ニ輸スルモノ亦此水ニ依ラサルハナシ加之冬春積雪ノ際莊

内三郡ト村山最上地方トノ往來ハ山路皆ナ閉塞シテ行通ヲ絶ツコトアルカ故ニ大概最上川ノ通船ニ賴ラサルヲ得ス經濟上ヨリ觀察スレハ全縣下ノ盛衰消長ハ最上川治水ノ得失ニ繫レリト云フモ決シテ誣言ニアラス是ニ於テ乎維新以前ハ各藩鏡テ全力ヲ治水ニ注キ年々國役金及普請米ヲ以テ工事ノ完成ヲ圖リ或ハ數次工事ノ直轄ヲ幕府ニ請願シタルコト有リ而此好慣例嚴ニ行ハレタルニモ拘ラヌ尙天保度ヲ始メトシテ汎濫氾溢ノ患ヲ被ムルコト屢ナリキ然ルニ維新以後ハ舊慣ハ善惡可否ヲ問ハス總テ斷滅ニ歸シ治水工事ノ如キモ一定ノ計畫ナキカ爲メ年ヲ重ヌルニ隨ヒ河身變シ水路梗リ人民厚生ノ本源タル舟楫ノ利ヲ奪ヒ去ルノミナラス水潦至ル毎ニ必ス暴溢ヲ極メ人民ノ生命財產ヲ擧ケテ漂蕩シ去リ沼岸村落ノ慘慘蕭索ヲ極ルコト年一年ヨリ多キヲ加フ是レ獨リ咎ヲ地異ニ歸スヘカラス蓋シ人事ノ未タ竭サ、ルニコレ由ル今試ミニ明治十二年七月ノ災害一斑ヲ擧ケンニ溺死二十五人流失二百六十戸崩壞百七十七戸床上浸水一萬千七百九十九戸堤防ノ破損十萬七千七百一十一坪九合損地及損耗八千九百九十五町六反一畝廿五步道路ノ破損七千五百五十間最上郡古口村ノ如キハ全村百五戸ノ内其九十

餘戸ヲ漂流シ去レリ又東田川郡清川村ノ如キハ全村激浪ニ捲去ラレタリキ其狀
今猶ホ人ヲシテ肌ニ粟セシムルモノアリ明治十四年全廿二年及本年度ノ洪水ノ
如キモ亦其災害前者ト伯仲ノ間ニアリ之ヲ要スルニ本川治水業ノ如キハ所詮地
方費及ヒ町村費ヲ以テ一時苟且ノ工事ヲ起スモ決シテ治水ノ急要ニ應スルニ足
ラサルナリ

曩キニ政府ハ見ル所アリテ明治十八年度ヨリ向後十ヶ年ノ繼續豫算トシテ國庫
金六十九萬八千九百三十八圓二十七錢九厘ヲ支出シ以テ最上川ノ河身改修ヲ設
計セラレタリ此ニ至リ縣下人民雀躍シテ災餘困弊ノ當時タルニモ拘ラス猶ホ克
ク五萬圓餘ヲ寄付シ又地方税及ヒ町村費ヲ以テ總金額百餘萬圓ヲ負擔シテ國庫
ノ低水工事ニ伴ヒ高水工事ヲ大成センコトヲ企圖セリ然ルニ既往九年間ノ實際
ニ於テ低水工費ノ支出ハ僅カニ二十五萬餘圓ニシテ特ニ二十三年度ヨリハ二
萬圓ニ減セリト聞ケリ則チ工事期限ハ最早盡ントスルニ拘ラス經費ノ支出ハ豫
算額ノ三分一強ニ過キス而シテ仔細ニ其工事ノ有様如何ヲ觀察スルニ遲滯ヲ致
セルハ勿論隨テ治レハ隨テ壞ル、ノ實ナキニ非ラス加之近來火災及ヒ震災ノ餘

木石ノ代價モ人夫ノ賃錢ト共ニ暴騰シ從テ工費ノ缺乏ヲ告ケ一歳ノ間三分ノ二
ハ手ヲ束子爲スコト無キモノ、如シ況ヤ高水工事モ之カ爲ニ阻止セララル、オヤ
嗚呼是果シテ治水ノ要ヲ得タリト云フ可キ歟若シ不幸ニシテ霖雨旬日ニ亘リ一
朝濁浪ノ地ヲ捲キ來ルコト有ランニハ積年ノ勤勞計畫モ一沫ニ歸シ再ヒ明治十
二年ノ慘劇ヲ見サルヲ保セス思フテ之ニ及ハハ悚然肌ニ粟セサルヲ得サルナリ
同人群坐シテ嬉戯スルホ一人隅ニ向テ泣ク者アレハ一坐必ス悄然タルハ人情ノ
已ム能ハサル所ナリ況ヤ至聖至仁ナル明世ニ於テ獨我縣無數ノ赤子ヲシテ飢寒
流離ニ泣カシムル豈聖朝ノ忍フ所ナランヤ是レニヨリテ之ヲ觀レハ爾后最上川
工費ノ支出増額ヲ要スルノ理由ハ眞ニ焦眉ノ急ナルハ炳トシテ火ヲ觀ルカ如キ
ナリ是ヲ以テ前々議會ニ於テ政府モ其必要且急ナルヲ認メ一歲五萬圓ノ豫算案
ヲ呈出セシニ貴院ハ大多數ヲ以テ原案ノ儘五萬圓ノ支出ヲ可決セルモ本年度ノ
政府豫算案ハ二十三年ノ轍ヲ履ミ二萬圓ニ減セリト聞ク某等眞ニ杞憂ニ堪ヘサ
ルナリ況ヤ其費ハ新ニ之ヲ求ムルヲ要セサルオヤ當初豫算經費ノ殘額目下猶ホ
四十餘萬圓アリ今直チニ之ヲ用ヒ斷然從來ノ規模ヲ一變シ工事進捗ノ方針ヲ執

リ頗沛ノ徒ヲ水火ノ中ニ救フコト實ニ國家ノ急務ト云ハサルヲ得ス俯シテ望ラ
クハ明治廿八年度ノ歲計豫算ヨリ少ナクモ五萬圓以上ヲ支出シ速ニ河身改修ノ
功ヲ竣ヘ一ハ以テ焦眉ノ急ヲ救ヒ一ハ以テ厚生永遠ノ利源ヲ啓カンテ切望ノ
至リニ堪ヘス由テ別紙參考書相添此段請願仕候也

明治廿八年一月十四日

山形縣東田川郡廣瀬村

大字松尾字櫻野二十六番地

平民農

山形縣會議員

加藤 正英

外三拾名

衆議院議長楠本正隆殿

參考書

第一 最上川治水ノ舊方法

本川ハ各藩ノ領地ヲ貫流セルカ故ニ各藩適宜ニ其治水ヲ講シ從テ經費支出ノ方
法ヲ同クセサリシト雖モ力ヲ茲ニ致シタルハ一般ノ事實ナリ特ニ水害ノ著シキ
莊内地方ニ於テハ國役金ノ外年々草高百石ニ付三石五斗ノ普請米ヲ賦課シ專ラ
最上川ノ修築費ト爲セリ又公儀普請場アリ幕府直轄ノ工事ニ屬シタル所ナリ

第二 最上川關係ノ各藩其他ノ領地

- (一)公領 (二)米澤藩領 (三)米澤新田領 (四)上山藩領 (五)山形藩領 (六)天童藩領 (七)長瀨藩領
- (八)新莊藩領 (九)莊内藩領 (十)松山藩領 (十一)羽黒山領又諸藩ノ分領ニ屬シタル地アリ
- (イ)館林藩分領 (ロ)松前藩分領 (ハ)佐倉藩分領 (ニ)土浦藩分領 (ホ)棚倉藩分領其他高刀領アリ

第三 沿岸被害ノ狀況

一非常洪水ノ損害ハ茲ニ發セサルモ尋常水變ノ爲メニ生セル被害ノ一端ヲ左ニ
記ス

一河身不定ナルカ爲ニ羽前羽後ノ國界及飽海東西田川兩郡ノ境界ニ異動ヲ呈シ舊來此岸ノ村落耕地モ忽チ彼岸ト變スルコト有リ從テ訴訟紛争ヲ生シタルコト少カラス

一田畑陷リテ淵源ト成リ又變シテ砂礫不毛ノ處ト爲リ或ハ沼灘卑濕ノ地ト爲ル故ニ現今荒地反別二千四百餘町歩ニ至レリ東田川郡連枝村澤新田村ノ如キハ嘉永六年以來同郡履村ハ慶長年代以來全村ヲ舉テ移轉シタルコト各三回ナリ其他祖先ノ家倉及ヒ所有地ヲ喪失シテ一朝路頭ニ迷ヒシ者ハ近年猶ホ幾百人ナルヲ知ラス

一飽海郡遊摺部村大宮村東田川郡丸沼村ノ如キモ住所ヲ移轉シ小出新田村ハ元ト飽海郡タリシモ今東田川郡ニ屬ス

一河身不定ナルカ爲メ時々用水路(北船堰)ヲ陷落シ數萬町歩ノ田面乍チ水利ヲ失スルカ如キハ最モ農業者ノ嘆息スル所ニシテ其損失ノ大ナルコト耕地一部ノ陷落ヨリモ甚シ

一河身不定ナルカ爲ニ渡場常ニ遷移セサルヲ得ス是啻ニ往來ノ行旅ニ不便ナル

ノミナラズ地方人民毎々渡場ニ至ル可キ道路ヲ改作シ從テ其勞費多ク又時トシテ渡船覆沒非命ニ斃ル、モノ甚シトセス

一河身不定ナルカ爲メニ通船數次阻碍セラル加之奔濤淺瀬又ハ岩角根木總テ不時ニ現出スルカ爲メニ覆沒破損ノ危險ヲ蒙ルハ年々歲々枚舉ニ遑アラズ

一河身不定ナルカ爲ニ其變動アル毎ニ土砂流出シテ酒田港ヲ埋メ船舶ノ出入ヲ妨シ特ニ近年ノ如キハ大船皆ナ河口外ニ碇ヲ下シ荷物積卸ノ困難言フニ堪ヘス

第四 將來ノ計畫

一山形縣會ハ最上川護岸堤防即チ高水工事ノ經費ハ二十七年
度ニ於テ縣稅負擔ト爲シ同年度及翌年度共測量費ヲ議決シ工事ノ設計ヲ本縣廳ニ請求セリ

一最上川高水低水ノ工事ヲ施行スルモ其水源ヲ修メサレハ全ク水旱ノ患ヲ斷ツ能ハサルヲ以テ本縣會ハ二十七年
度以來水源調査費ヲ議決シ水源涵養林調査委員ヲ置キ之ニ從事セシメタリ

明治廿八年二月十五日印刷
全年月十八日發行

(非賣品)

編輯者
兼發行者

渡邊九十九

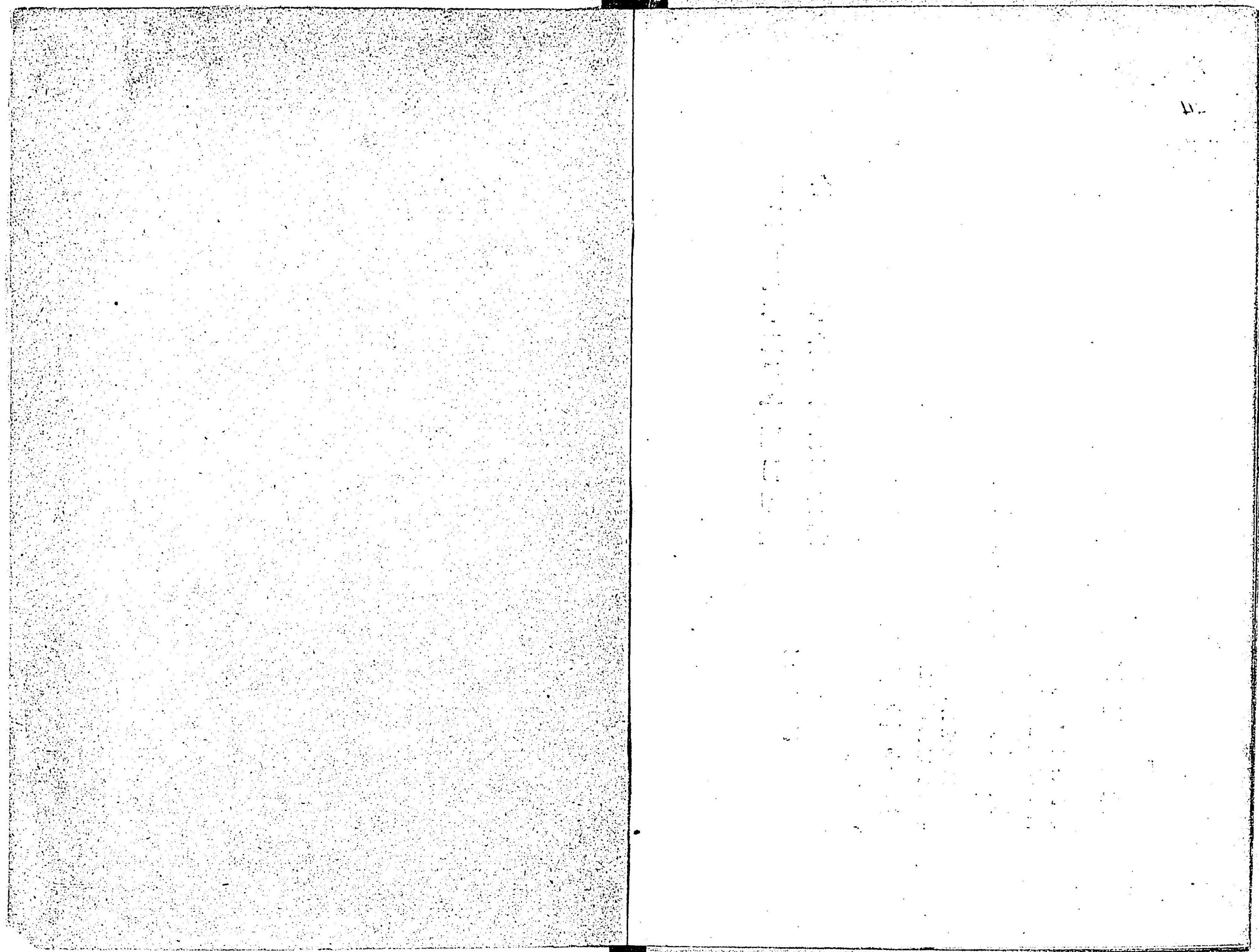
山形縣飽海郡南平
田村大字飛鳥

印刷者 堀田道貫

京橋區山城町六番地
電話 一一七七番

印刷所 堀田印刷所

全所



9
444

45